

### 和仏法律学校講義録

副島, 義一 / 秋山, 雅之介 / 勝本, 勘三郎 / 竹井, 耕一郎

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3-21

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

44

(発行年 / Year)

1899-12-15



和佛清律學綱  
講義  
第一卷

和佛清律學綱

每月貳回 目次

行政法 (元) 自三四五至 法學士 竹井耕一郎  
表紙及目次 (二五三外六)

戰時國際公法 (至一〇〇頁) 法學士 秋山雅之介

刑法各論 (自三五七頁) 法學士 勝本勘三郎

第貳拾壹號 憲法 (自二五九頁) 法學士 副島義一



# 法學志林

第貳號 十二月五日發行

每月一回發行  
定價一冊金拾錢郵稅一冊金壹錢十冊前金壹圓郵  
稅不要  
校友生徒校外生ニ限リ  
特價一冊八錢郵稅壹錢十冊前金六拾錢郵稅不要

古賀法律學士秋山法學士寺尾法學博士ノ肖像

法學研究ニ付テ

法學博士梅謙次郎

勞役者ノ炭厄ニ關スル責任問題(續)法科大學々生五來欣造

寺院僧徒ノ權利ニ關スル判例

關西及九州紀行續(信岡雄四郎)高利借取締法先登士

民法及破產法問題解答二、法學博士梅謙次郎

○平和會議成功ノ理由○無盡講世話人ノ訴訟權ニ關スル新判例○上訴ノ場合ニ於ケル訴ノ取下○忌避申請ノ流行及濫用○學者トシテノ判檢事○地上權假登記取消請求ト抗辯○確證訴訟ノ判例○司法官ト行政官ノ犯罪○居留地家屋稅○高利貸取締法案提出○看護婦ト女房○法科大學生ノ落第ト外山生ノ意見○議員收賄ニ關スル刑罰○百五十一回ノ拘留

○講師會○講師校友生徒有志秋季大懇親會○特別試驗及擬判試驗○圖書閱覽室資金寄附者氏名○判事檢事登用第一回試驗及第者○校友死訃

東京市麴町區富士見町六丁目 司法省指定

和佛法律學校

發行所 (電話番町一七四)

## 學教育ナリ

小學校令ニ依レハ小學校ニ於テハ兒童ノ身體發育ヲ計リ道德及ヒ國民教育ノ基礎並ニ生活ニ必須ナル普通ノ智識ヲ授ケルヲ本旨トストアリ兒童ハ滿六年以上十四年迄ヲ學齡トス學齡兒童ヲ保護セサルヘカラサル者ハ就學義務者ト云フ其義務ニ基キテ行政行為ニ對シ報償スルモノハ授業料ナリ即チ授業料ハ手數料ノ一種ナリ此義務ハ尋常小學ヲ終ラサル間繼續スルモノニシテ若シ貧窮ノ爲メ又ハ兒童ノ疾病ノ爲メ其他已ムヲ得サル事故アリテ修學セシムルコトヲ得サルトキハ市町村長ハ必要ト認ムレハ檢査ヲ行ヒ監督官廳ノ許可ヲ經テ此義務ノ免除又ハ猶豫ヲ爲スコトヲ得尙ホ授業料ノ一部又ハ全部ヲ免除スルコトヲ得此義務ノ實行ヲ監視シ大休ニ於テ小學校ヲ管理スルハ市町村長カ國家ノ機關トシテノ職務ナリ然ルニ學校ニ要スル建物及ヒ土地ヲ供給シ之ヲ維持シ又ハ其他ノ費用支出ハ市町村團體ノ負擔ナリ

尋常小學校設置ノ義務ヲ負フハ市町村町村組合學校組合並ニ市町村內ノ區ナリ市又ハ郡參事會又ハ町村ノ意見ヲ聞キ知事ヲ經テ學校ノ位置及ヒ校數ヲ定

# 法學志林

第貳號 十二月五日發行

古蹟

○古蹟志林 古蹟志林 古蹟志林

○古蹟志林

○古蹟志林 古蹟志林 古蹟志林

○古蹟志林

○古蹟志林 古蹟志林 古蹟志林

○古蹟志林

○古蹟志林 古蹟志林 古蹟志林

○古蹟志林

○古蹟志林 古蹟志林 古蹟志林

○古蹟志林

○古蹟志林 古蹟志林 古蹟志林

○古蹟志林

○古蹟志林 古蹟志林 古蹟志林

○古蹟志林

○古蹟志林 古蹟志林 古蹟志林

○古蹟志林

○古蹟志林 古蹟志林 古蹟志林

○古蹟志林

○古蹟志林 古蹟志林 古蹟志林

發行所

○發行所 發行所 發行所

090  
1899  
3-1-21

學教育ナリ  
 小學校令ニ依レハ小學校ニ於テハ兒童ノ身體發育ヲ計リ道徳及ヒ國民教育ノ基礎並ニ生活ニ必須ナル普通ノ智識ヲ授クルヲ本旨トストアリ兒童ハ滿六年以上十四年迄ヲ學齡トス學齡兒童ヲ保護セサルヘカラサル者ハ就學義務者ト云フ其義務ニ基キテ行政行爲ニ對シ報償スルモノハ授業料ナリ即チ授業料ハ手數料ノ一種ナリ此義務ハ尋常小學ヲ終ラサル間繼續スルモノニシテ若シ貧窮ノ爲メ又ハ兒童ノ疾病ノ爲メ其他已ムヲ得サル事故アリテ修學セシムルコトヲ得サルトキハ市町村長ハ必要ト認ムレハ檢査ヲ行ヒ監督官廳ノ許可ヲ經テ此義務ノ免除又ハ猶豫ヲ爲スコトヲ得向ホ授業料ノ一部又ハ全部ヲ免除スルコトヲ得此義務ノ實行ヲ監視シ大體ニ於テ小學校ヲ管理スルハ市町村長カ國家ノ機關トシテノ職務ナリ然ルニ學校ニ要スル建物及ヒ土地ヲ供給シ之ヲ維持シ又ハ其他ノ費用支出ハ市町村團體ノ負擔ナリ

尋常小學校設置ノ義務ヲ負フハ市町村町村組合學校組合並ニ市町村内ノ區ナリ市又ハ郡參事會又ハ町村ノ意見ヲ聞キ知事ヲ經テ學校ノ位置及ヒ校數ヲ定

行政法

二四五



ム町村等ニ於テ兒童ノ數渺キトモ他ノ團體ニ託スルコトヲ得或ハ市町村内ノ私立小學校ヲ以テ代用スルコトアリ市町村ノ負擔スル費用ニ付テハ授業料ヲ以テ收入トス其他基本財産ヲ設クルコトヲ得尙ホ不足アレハ一定ノ手續ヲ經テ郡費府縣費ヨリ補助セ且年々國庫ノ補助ヲ受ク

小學校ニ於ケル職員及ヒ小學教育事務ニ關スル機關ハ校長教員及ヒ其他ノ者ニシテ檢定ヲ經テ免許狀ヲ有スルコトヲ必要トス檢定ハ委員アリテ之ヲ行ヒ或ハ文部省直接ニ行フ其任用解職ハ知事之ヲ爲ス此等ノ者ハ職務ヲ執行スルニ當リ兒童ニ對シテ懲罰ヲ爲スコトヲ得レトモ懲罰權ヲ有セス尙ホ職務上不當ノ行爲アルトキハ懲戒ヲ受ク懲戒ハ譴責、罰俸、免職、免許狀ノ褫奪是ナリ之ニ對シテ訴願ノ途アリ此等ノ者ハ普通ノ官吏ト同シク種々ノ權利ヲ有ス此他小學教育事務ニ關スル機關ニ學務委員等アリ

終リニ一言スヘキハ私立小學校ナリ國家ハ小學校ヲ設立スルモ全ク獨占スルヲ要セス唯私立小學校ニハ多少ノ取締アリ例ヘハ之ヲ設立スルニハ知事ノ許可ヲ要シ又文部大臣ハ不法ノ行爲アリト認ムルトキハ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

其他小學校令ニシテ性質上適用セララル、モノハ之ニ依ル、（註）右ノ外幼稚園、圖書館、盲啞學校、徒弟學校、實業補習學校ニ付テハ同シク小學校令ノ適用ヲ受クル場合アリ現ニ徒弟學校、實業補習學校ハ小學校ノ一種トスルノ規定アリ

次に中等及ヒ高等教育ニ付テハ成ル可ク自由ニ放任シテ國家ハ唯其力ノ及ハサル處ニ於テ設備ス中學以上ハ就學ノ義務又ハ設備ノ義務ナク唯尋常中學校及ヒ師範學校ハ普通各府縣ニ各一個宛ヲ置クコト、爲レリ其設立維持ハ重ニ府縣之ヲ負擔ス其他學校ノ設立ハ自由ナルモ唯許可ヲ受クルコトヲ要ス又實業學校ニ付テハ特ニ國庫ヨリ補助ス

### 第六節 經濟行政

土地公用徵收 廣義ノ徵收ニ付テハ昔テ一言セリ即チ國家ハ種々ノ目的ノ爲メニ人民ノ資産ヲ徵收スルコトアリ公益ノ爲メニスル土地公用徵收モ亦其一種ナリ之ニ對スル賠償ノ性質ハ既ニ述ヘタル所ナレハ之ヲ略ス土地公用徵收法ハ收用セラル、土地ヲ限リ公益認定ノ權ヲ内閣ニ屬セシム唯國防上ノ工事

ノミニ關シテハ主務大臣之ヲ認定スルモノトス土地收用審査會ハ府縣會常置委員及ヒ專門家ヲ以テ組織シ工事ノ仕様補償金額ニ關スル裁決ヲ行フモノトス但之ニ對シ不服アレハ訴訟若クハ訴願ヲ爲スコトヲ得ルノ規定アリ以上ハ公益ノ爲メニ土地ヲ收用スルモノナリ次ニ災害ニ對スル保護ニシテカ爲メニ人ノ自由ヲ制限スルコトアリ其重ナルモノハ火災及ヒ水災ノ場合ナリ此等ハ保安警察ノ部類ニ屬ストスルヲ可トスレトモ特別ノ目的ヲ有スルモノ例ヘハ山林保護ノ爲メニスル火災ノ豫防又ハ田畑ヲ保護スルカ爲メニスル水災ノ豫防ノ如キハ保安警察ニ屬セス火災ニ關シテハ其原因タルヘキ危險物又ハ行爲ヲ取締ルコトアリ例ヘハ火柴又ハ石油ニ關スル取締ノ知シ尙ホ原因ノ豫防ニアラスシテ火災甚自身ヲ消防スル場合アリ之ニ就テハ國ノ事務トシテ消防組ノ設ケアリ但其費用ハ各地方ニ於テ負擔ス消防組ハ矢張り警察官之ヲ管轄ス

次ニ水災ヲ豫防スルニハ水利組合條例等アリ是ハ唯水害ノ豫防ノミニアラスシテ土地ノ保護ヲモ目的トス此點ヨリシテ水利組合ヲ別テ普通ノ水利組合水

害豫防組合トス前者ハ主トシテ任意ニ設立セラレ後者ハ強制ノ性質ヲ有ス然レトモ知事ノ認可ハ尙ホ前者ニモ必要タリ之ヲ解クニ當リテモ亦同シ後者ハ知事之カ區域ヲ限リテ設置シ會議成立セザルコトアルモ知事ハ郡參事會又ハ府縣參事會ヲシテ代リテ議決セシム前者ハ區域内ノ土地所有者ヲ組合員トシ後者ハ家屋所有者ヲモ併セテ組合員トス此組合ハ公法上ノ團體ト認メラレ郡長知事內務大臣ノ監督ヲ受ク

以上述ヘタルハ主トシテ一般ニ財產ノ保護ニ關スル方法ナルモ次ニ各種ニ付テ述ヘン

農業 之ヲ狹意ニ解スレハ牧畜山林等ヲ除キタルモノヲ云フ前述シタル水利組合モ同シク農業發達ヲ圖ルモノナリ尙ホ田畑虫害ノ豫防又ハ驅除ニ關スル規定アリ又蠶種検査農事試驗講習及ヒ農會等ニ關スル規定アリ山林ノ保護ニ牽連シテ獸醫ノ規則アリ普通醫師ニ關スル規則ト畧ホ同一ナレハ之ヲ畧ス山林 大凡山林ハ保存林部分林トノ區別アリ保存林ハ土地ノ保護ノ爲メ必要

ナルモノ水利水害ヲ豫防スルカ爲メ必要ナルモノ名所舊跡ニ係ルモノ境界ノ標示及ヒ衛生ニ必要ナルモノ等ヲ指シテ保存林ト云フ部分林ハ樹木ノ植付ヲ人民ニ命スルモノニシテ官私共有ノ性質ヲ有スルモノヲ云フ此等ニ關シテ種々ノ規定アリ尙ホ一般ニ森林ニ關シテ森林警察ノ規定アリ其外山林ノ火災豫防ニ關スル取締規則アリ

狩獵之ニ付テハ狩獵法アリ狩獵ハ一定ノ方法ヲ以テ野生ノ鳥獸ヲ捕獲スルヲ云フ狩獵ヲ爲スモノハ免許狀ヲ要ス共同狩獵地ニ於テハ他人ノ狩獵ヲ禁止スル權利ヲ生スルカ故ニ特ニ免許ヲ要ス尙ホ獵具獵法獵場ニ關スル規定及ヒ鳥獸保護ノ規定アリ

漁業 漁業ニ關シテハ公共ノ水面ニ在リテハ寧ロ自由タリ唯水面ヲ區劃シテ漁業ヲ行フトキハ地方廳ノ許可ヲ要ス尙ホ水産動植物ノ保護ノ爲メ及ヒ其他ノ目的ノ爲メニ漁具漁法漁場水産物ノ種類ニ付テ制限アリ尙ホ國際關係上種々ノ取締規則アリ

鑛業 之ニハ鑛業條例ノ規定アリ之ニ依レハ未ダ探掘セサル鑛物ハ國ノ所有

トス一條例ニ所謂鑛物トハ一定ノ物質ヲ指スモノトス土地ノ所有者ハ鑛業ノ爲メニ種々ノ義務ヲ負擔シ之ニ對シテハ損害賠償ヲ求ムル規定及ヒ借地料ヲ請求スルコトヲ得ルノ規定アリ試掘ハ鑛山監督官廳ノ認可探掘ハ農商務大臣ノ特許ヲ要ス但外國人ニハ之ヲ與ヘサルモノトス尙ホ鑛場及ヒ鑛業人ニ關シテハ別ニ取締規定アリ鑛物中ノ砂鑛即チ砂金砂錫砂鐵ニ付テハ前ノ場合ト異ナリ所有者ノ權利ヲ認ム但採取スルニハ官廳ノ許可ヲ要ス

以上本節ノ始ヨリ述ヘ來リマハ專ラ土地ニ關係ス以下商工業ニ關シテ述ヘントス營業之ニ關シテハ法令極メテ不完全ナリ營業ハ利益ヲ得ルヲ目的トシ獨立シテ職業トシテ行フモノヲ謂フ此中ニ於テ高等ナル學術技藝ハ之ヲ除ク今日一般ノ規定トシテハ二三ノ規則ニ止マリ多クハ各地方官廳ノ取締ニ任セタリ營業ハ認可或ハ免許ヲ要シ或者ニ付テハ保證金ヲ納ムルヲ要スルモノアリ尙ホ營業者ハ其目的ノ爲メニ組合ヲ設クルヲ得組合ハ認可ヲ要シ同業者ハ之ニ加入スルノ義務ヲ負フ場合アリ此結合ヲ爲スコトハ一般ニ自由ニ放任スルモ或場合ニハ特別ニ強制スルコトアリ茶業組合蠶糸業組合及ヒ漁業組合ノ如キ

是ナリ此等ノ組合ハ公共團體ニ類似スルモ其目的カ國家ノ機關トシテ行動スルニアラサルカ故ニ私法上ノ關係タリ

特許 特許ニハ種々ノ規定アリ特許トハ工業ニ關シ發明ヲ專ラ利用スル特權ヲ與フル働キヲ云フ特許ヲ與フルニハ其發明カ新規ニシテ有益ナラサルヘカラス之ニ對シテ官廳ハ發明ノ實體ヲ検査シテ許否スルノ權ヲ有ス此權利ハ一定ノ期限ヲ有ス然レトモ期限内ニ於テ時トシテ無効或ハ失効ノ場合アリ

意匠權 工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模様若クハ色彩ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出セル者ハ之ヲ登録シテ專用スルコトヲ得尙ホ商標ニ付テノ取締アルモ別ニ説明スル程ノコトモナケレハ之ヲ略ス

著作權 此權ニ付テハ著作權法ノ制定アリ之ニ依レハ文書演述圖書彫刻模型寫真其他文藝若クハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其著作物ヲ複製スル權利ヲ有ス翻譯興行ノ權モ著作權ノ内ニ包含ス此權利ハ之ヲ登録スレバ普通著作者ノ死後三十年間繼續ス之ニ對スル僞作者ハ損害ノ責ニ任シ尙ホ罰則ノ規定アリ

右ノ外度量衡貨幣及ヒ銀行等述フヘキコト多ケレトモ之ヲ略ス次ハ主トシテ交通ニ關スル行政即チ郵便、電信、電話、鐵道、水路ノ行政ヲ逐次説ヘキ豫定ナリシモ學期試驗期モ數日ニ迫リタレハ同シク之ヲ略シ本學年ハ之ヲ以テ完結トシ茲ニ講筵ヲ閉ツ

### 行政法講義 終

行政法講義

目次  
第一章 行政法の概論  
第二章 行政法の基礎  
第三章 行政法の原則  
第四章 行政法の適用  
第五章 行政法の救済  
第六章 行政法の執行  
第七章 行政法の責任  
第八章 行政法の改正  
第九章 行政法の発展  
第十章 行政法の展望

(三十二年度講義録)

法學士 竹井耕一 耶講述  
行政法講義

和佛法律學校發行

### 行政法目次

- 第一編 總論.....一
- 第一章 行政.....一
- 第二章 行政行爲.....一三
- 第三章 行政法.....四七
- 第四章 行政法ノ淵源.....五九
- 第五章 公權.....六四
- 第二編 行政組織.....七八
- 第一章 總論.....七八
- 第一節 行政機關ノ組織.....七八
- 第二節 官廳.....八〇
- 第三節 官吏.....八六
- 第四節 公共團體.....一〇二

第二章 中央官制	一〇六
第一節 樞密院	一〇六
第二節 內閣	一〇八
第三節 各省大臣	一一一
第四節 府縣知事	一一八
第五節 郡長	一二二
第三章 地方自治ノ團體	一二四
第一節 市町村	一二八
第二節 郡	一四六
第三節 府縣	一五四
第四章 行政裁判	一五七
第五章 權限爭議	一七〇
第三編 行政各部	一七二
第一章 外務行政	一七二

二

第二章 軍務行政	一八四
第三章 財務行政	一九五
第四章 內政	二一九
第一節 警察	二二二
第二節 人事行政	二三五
第三節 衛生行政	二三七
第四節 貧民ニ對スル行政	二四一
第五節 宗教教育行政	二四三
第六節 經濟行政	二四七

行政法目次終

難規則ノ規定ニ準シ支給シ其明文ナキ者ハ約ソ左ノ範圍内ヲ自途下  
 シテ支給スヘシ  
 五拾圓  
 將校相當官  
 四拾圓  
 佐官相當官  
 三拾圓  
 尉官相當官  
 以上述へ來リタル所ニ由リ俘虜ノ拘留ニ關スル一般待遇ヲ明カニセリ今俘虜  
 ノ犯則及犯罪ニ付キ一言セシニ俘虜ハ拘留中在留國ノ一般ノ法律ヲ遵守スヘ  
 キノミナラス俘虜ノ取締ニ關スル規定ヲ嚴重ニ遵奉セサルヘカラサルハ「ブル  
 ツセル」宣言第二十八條及「ワタクス」フワード「陸戰法規第六十二條」於テ明言ス  
 ル所ニシテ俘虜ニ與ヘラレタル自由ノ範圍ヲ超過シ若クハ濫用スルトキハ之  
 ニ對シ強制又ハ懲罰ヲ受タヘキモノトス又俘虜ハ如何ナル場合ニ於テモ在留  
 國人民ノ享有スル權利ヨリ以上ノ特權ヲ有スル能ハスシテ拘留國ノ重輕罪ヲ  
 犯シタルモノハ俘虜タルノ故ヲ以テ之ニ對スル刑罰ヲ免カル、コト能ハス隨  
 テ開戦以前又ハ俘虜ト爲リタル前ニ於テ犯罪アリタル者ノ俘虜ト爲リタルト



キハ其犯罪ニ對スル刑罰ヲ受クヘク又俘虜ト爲リタル後ニ於ケル犯罪モ亦刑法ニ由リテ罰セラルヘキモノタリ而シテ斯ル俘虜ノ犯罪アリタル場合ニ於テ普通刑法ヲ適用スヘキヤ將タ陸海軍刑法ヲ適用スヘキヤハ交戰國ノ國法ニ依ルヘキモノニシテ我國陸海軍治罪法第二十五條ニハ俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スト規定セリ又俘虜ノ共謀シテ一揆暴動ヲ企テ若クハ逃亡ヲ謀ルトキハ固ヨリ嚴罰ヲ受クヘク時宜ニ依リテハ之カ爲メ殺戮セラレルモノトス之ニ反シテ俘虜ノ共謀ニ依ラザル逃亡ハ單ニ之ヲ譴責シ又ハ禁錮シ或ハ監視ニ付スル等其事情ニ依リテ異ナリト雖モ將校ニシテ逃亡ヲ企ツルトキハ其將校ノ資格ニ對スル待遇ヲ受クヘキ特權ヲ奪ヒ去ラルヘク又俘虜中逃亡ヲ企テタルモノアルトキハ其者ヲシテ逃亡ノ念慮ヲ絶タシムルト同時ニ其他ノ俘虜ヲ脅嚇シテ之カ逃亡ヲ豫防スル爲メ逃亡ヲ企テサルモノヲモ併セテ禁足スルカ如キ強制ヲ加フルモ決シテ不法ニ非ス然レトモ俘虜ノ逃亡ヲ企ツルハ決シテ犯罪ト看做サス何トナレハ俘虜トシテ降服シタルハ決シテ永ク俘虜トシテ在留スヘキコトヲ默約シタルモノニ非サルヲ以テ捕收國ニ於テ其逃亡

ヲ防キ之ヲ妨クルノ權利アルト同時ニ俘虜ノ逃亡ハ決シテ刑事上ノ犯罪トシテ刑セラルコト能ハス隨テ逃亡者ノ追捕セラレタルトキ又ハ逃亡ヲ遂ケタル後ニ於テ其敵人ノ再ヒ俘虜ト爲リタルトキハ其以前ニ爲シタル逃亡ニ付キ何タル刑罰ヲ被ルコトナキモノトス然レトモ逃亡ニ際シテハ捕收國ハ之ヲ防キ其逃亡ヲ妨クルノ權利ヲ有スルヲ以テ逃亡者追捕ニ際シテ逃亡者ノ勢力強クシテ逃亡ヲ遂クルノ恐アルトキハ追捕者ハ如何ナル手段ヲ用ヒテモ其逃亡ヲ防キ得ヘキニ由リ武器ヲ以テ其逃亡ヲ遮リ又ハ之ヲ殺戮スルモ妨ナシトス又逃亡ノ外其他俘虜ニ於テ犯則アリタル場合ニ於テハ其地位資格ニ相當スル俘虜ノ特權ヲ有スルコト能ハスシテ例ヘハ自己ノ姓名資格等ヲ隱匿又ハ僞稱スルカ如キハ前述セル普通俘虜ノ待遇ヲ享クルコト能ハス終ニ臨ミ大問題ノ存スルハ敵國軍人ノ降服シテ俘虜ト爲ラントスルモノハ如何ナル場合ニ於テモ殺戮シ能ハサルヤ否ヤノ問題ナリ方今戰爭ノ法則トシテ戰闘者ノ疾病又ハ負傷ノ爲メ抗拒スルノ能力ヲ失ヒ若クハ降服スルモノハ之ヲ殺スノ必要ナキヲ以テ敵國軍人ノ降服ヲ拒絕スルコト能ハサルヲ通則トシテ

ルツセル宣言第十三條ニ於テモ軍隊ハ降服ヲ許サ、ルノ宣告ヲ爲スコトヲ禁  
 制セリ然レトモ敵人ノ降服ヲ拒絕スルコト能ハサルノ義務ハ之カ爲メ敵人自  
 ラ戰爭ノ法則ヲ犯シタルモノヲ保護スルコト能ハスシテ敵人先ツ對手國戰闘  
 者ニ對シテ降服ヲ許サ、ルノ意思ヲ發表シタルカ如キ其他戰爭ノ法則上重大  
 ナル違反ヲ爲スニ於テハ對手國政府又ハ其軍隊司令官ハ之カ報復トシテ敵人  
 ノ降服ヲ許スノ義務ヲ負ハス例ハ千八百五十七年印度叛亂ニ際シテ屢々起  
 リタルカ如ク降服シタル兵士ノ英國軍隊中ニ在リテ敵軍ト對陣スルニ當リテ  
 ハ其兵士ノ却テ英國軍隊ヲ反撃シタルカ如キ場合ニ於テハ陸海戰爭ヲ問ハス  
 敵軍ニ向テ其降服ヲ許サ、ルモ決シテ不可ナク隨テ其降服セントスル戰闘者  
 ニ對シテ之ヲ放テテ死スル迄戰ハシメ又ハ俘虜ト爲ランカ爲メ來ルモノヲモ  
 殺戮シ得ヘキ結果ヲ來サ、ルヲ得ス加之敵軍ニ於テ何タル犯法ナキ場合ニ於  
 テモ俘虜ト爲ルモノ多數ニシテ自國軍隊ニ於テ之ヲ安全ニ監督抑留スルコト  
 能ハサルカ若クハ其俘虜ヲ抑留セントスルニ於テハ自國軍隊ノ糧食ヲ減シテ  
 戰爭上大ナル障礙ヲ醸スノ虞アルカ又ハ自國軍隊ノ少數ニシテ其多數ノ俘虜

ノ反抗スルニ於テハ却テ之カ爲メ自國軍隊ノ亡滅スヘキ憂アリテ其俘虜ヲ捕  
 へ置クハ危險ナル場合ナキニ非ス斯ル場合ニ於テ若シ其俘虜ヲ解放スルトキ  
 ハ敵軍ヲ強大ナラシメ爲メニ自國軍隊ノ全滅ヲ來スヘキ危險ヲ與ヘ然レハト  
 テ其俘虜ヲ拘留シ置クコトハ亦自國軍隊ノ事情ニ於テ許サ、ルモノアリ斯ク  
 事情切迫ノ場合ニ於テハ自國軍隊ノ自衛上其俘虜ヲ殺戮シ得ヘキモノ、如シ  
 今世紀ノ實例ニ於テハ斯ル場合ノ發生シタルコトナキモ將來之ト同一ノ場合  
 發生セサルヲ保スヘカラス然レトモ斯ク俘虜ヲ悉ク殺戮スルノ非常手段ヲ取  
 ルニ付テハ其事由ノ明確ナルヲ要シ若シ普通ノ場合ニ於テ單ニ降服者ヲ安全  
 ニ抑置スルコト能ハサル場合ニ止マルトキハ之ヲ解放スルノ外ナク其解放ニ  
 由リ敵軍ノ勢力ヲ強大ナラシムルノ虞アルトキト雖モ之カ爲メ自國軍隊ノ亡  
 滅ヲ招クカ如キコトナキニ於テハ其降服者ヲ殺戮スルカ如キ人情忍フヘカラ  
 サル行爲ヲ爲スヨリモ筆口之ヲ解放シテ敵軍ノ勢力ヲ増加スルノ害ヲ擇フヘ  
 キハ普通行ハル、所ニシテ學說モ亦之ヲ唱導セリ

第三項 俘虜ノ解除

戰時國際公法

俘虜ノ解除ニ付テハ第十八世紀ノ末葉ヨリシテ國際公法上ニ大ナル變更ヲ來シタルモノトス既ニ前述セル如ク昔時ハ戰爭ノ俘虜ヲ悉ク奴隸トストノ慣習行ハレ世ノ文明ニ進ミ耶蘇教ノ傳播ニ連レ漸ク奴隸トスルノ慣例ハ廢レタルモ之ニ次キ捕獲者ハ俘虜ヲ勞働セシメテ取得スヘキ利益ヲ償金トシテ支拂ハシメ以テ解放スルノ慣行ヲ生シ其償還ノ契約モ當初ハ俘虜ト捕獲者ノ間ニ於ケル箇人的ノモノナリシカ一變シテ國際上ノ契約ヲ以テ之ヲ行フニ至リ第十七世紀ニ於テハ戰爭ノ當初又ハ戰爭中ニ於テ交戰國ハ互ニ協議ヲ以テ俘虜ノ償還額ヲ定ムルコトヲ普通トシタリシカ其後漸ク追ヒテ俘虜交換ノ慣習ヲ發生シ賠償ハ交換ト並ヒ行ハレ又ハ交換ノ附約トシテ俘虜償還ノ存スルニ至リ更ニ變シテ交換ハ賠償ノ慣習ヲ壓シ近來ニ至リテハ俘虜償還ハ全ク其跡ヲ絕チ千七百八十年英佛戰爭ニ於テ兩國海陸軍ノ俘虜ヲ互ニ賠償スルノ約定ヲ爲シタルハ償還ニ關スル最後ノ實例タリ其後商船ノ海員ニ關シテハ賠償ヲ爲シタルコトナキニ非サルモ一般俘虜ニ付テハ賠償ハ今ヤ殆ト歴史的事實ニ過キスシテ絶テ其實行ヲ見サルコトト爲レリ然レトモ北米合衆國陸軍訓令第百八

條ニ於テ俘虜交換ニ付キ殘餘ヲ生シタル人員ニ對シテハ時トシテハ一定ノ金額ヲ支拂ヘシメ又非常ナル場合ニ於テハ糧食衣服其他ノ必要品ヲ出サシメテ之ヲ解放シ得ヘシト規定シ在リテ戰爭中敵國ノ俘虜ヲ賠償ニ由リ解放スルハ素ト自由ノ身體ヲ賣買スルニ起因スト雖モ必スシモ賣買ト解釋スルコトヲ要セスシテ之ヲ捕ヘ居ル國ニ於テ俘虜ヲ解放スルニ對スル報酬トシテ金錢ヲ支拂フモノト看做シ得ヘク隨テ道理上決シテ不可ナキ所ナレハ時宜ニ由リ今後何時ニテモ之ヲ實行シ得ヘキモノナルカ如シ

方今俘虜ノ解除ニ關スル一般ニ承認セラレ居ル原則ヲ一言センニ元來捕收國ニ於テ拘留シ置クノ理由トスル所ハ前述ノ如ク戰時敵國ノ之ヲ使用シテ戰國力ヲ增加セシメサルニ在ルヲ以テ戰爭ノ終局ニ至ラハ決シテ之ヲ拘留スルノ必要ナキニ由リ交戰國間ニ於テ平和ノ恢復ト共ニ其俘虜ハ無論解放サルヘキモノニシテ其解放ニ關スル時日並ニ方法ハ兩國ノ協議ニ由リテ決定サルヘキモノトス又千八百六十四年「ジュネーヴ」條約第六條ニ於テ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル軍人ハ何國ノ屬籍タルヲ論セス之ヲ接受シ看護スヘシ治療後兵役ニ堪ヘス

ト認メタル者ハ其本國ニ送還スヘシ又其他ノ者ト雖モ戰爭中再ヒ兵器ヲ帶ヒ  
 ナル要約アル者ハ其本國ニ送還スヘシトアリテ俘虜ノ軍人ニシテ負傷又ハ疾  
 病ニ罹ルモノハ此條約ノ規定ニ由リ俘虜トシテ拘留サルヘキ義務ノ解除ト  
 爲リ治療後兵役ニ堪ヘサルモノハ勿論其兵役ニ堪ヘ得ヘキモノト雖モ戰爭中  
 再ヒ兵器ヲ取ラサルノ約束ヲ爲スニ於テハ一旦負傷又ハ疾病ニ罹リタルノ故  
 ヲ以テ本國ニ送還サルヘキ特權ヲ有スルコト、爲レリ此規定ノ當否ニ付テハ  
 千八百七十四年ブルツセル列國會議ニ於テモ議論アリタル所ニシテ病者又ハ  
 負傷者ヲ故ラニ其本國ニ送還スルノ義務ヲ交戰國ニ負ハシメタルヲ非難セ  
 獨逸代表者ノ如キハ此規定ハ甚タ要領ヲ得サルモノト論ツタルモ今日ニ於テ  
 ハ未ダ修正ノ運ニ至ラスシテ歐米諸大國モ悉ク此條約ニ盟約セルコトナレハ  
 我國ノ如キ同條約ニ加入スル國ニ於テ一般此規定ヲ遵奉スルノ義務ヲ有スル  
 ノミナラス千八百八十年ヲツクスフヲード陸戰法規第七十四條ニ於テモ負傷  
 者及病者ニシテ治療後兵役ニ堪ヘサルモノハ一般ノ解放前ト雖モ俘虜ノ待遇  
 ヲ免カレ其本國ニ送還サルヘキモノト規定セリ今病者及負傷者ノ場合ヲ除キ

戰爭中俘虜ノ解放ニ關スル場合ヲ列舉セハ左ノ三種ト爲シ得ヘシ

第一 逃亡

逃亡トハ俘虜カ其保管ニ居ル國家ノ拘留ヲ自ラ脱シテ本國又ハ第三國ニ逃亡  
 スルヲ云フモノニテ俘虜ハ決シテ犯罪者ニ非サルヲ以テ捕收國ニ於テ其逃亡  
 ヲ防遏スルノ手段ヲ盡スハ妨ナキモ一旦其逃走スルニ際シテ追捕ヲ爲サス又  
 ハ追捕ノ手ヲ免レテ本國又ハ第三國ニ逃亡ヲ遂ケタルトキハ之カ爲メ其俘虜  
 ハ自由ノ身體ト爲ルモノニテ再ヒ俘虜ト爲ル場合ニ於テモ決シテ其逃亡ノ爲  
 メ刑罰ニ處セラルヘキモノニ非ス尤モ俘虜ノ任意ニテ逃亡セストノ誓言ヲ爲  
 シタルトキハ其宣誓ヲ破リタルノ逃亡ヘ再ヒ俘虜ト爲ル場合ニ於テ之ニ對ス  
 ル刑罰ヲ受クヘキモノナレトモ俘虜ニ於テ斯ク逃亡セストノ誓言ハ其任意ニ  
 出ツルコトヲ必要トシ決シテ捕收國ニ於テ俘虜ヲ脅迫シテ其誓言ヲ要請スル  
 コト能ハス

第二 交換

戰爭中交戰國間ニ於テ敵國ニ於ケル自國俘虜ヲ解放スルニ對シ自國ニ於テモ

敵國俘虜ヲ解放スルヲ交換ト云フ俘虜交換ヲ爲スニ付テハ兩國ニ於テ協議ノ  
 上約定(Convention)ヲ結ヒ其約定ニ由リテ之ヲ行フヘキモノトス然レトモ交戦國ハ  
 互ニ其俘虜ヲ戰争ノ終局マテ拘留シ得ヘキ權利ヲ有スルヲ以テ之ヲ交換スル  
 ハ固ヨリ交戦國ノ便宜ニ基キ其任意ニ出ツルニ外ナラスシテ交戦國ノ一方ニ  
 於テ交換ヲ拒ミ得ヘキハ論ヲ待タズ又俘虜ヲ交換スルニ付テハ其交換ニ係ル  
 者ヲ再ヒ戰争ニ使用シ得ヘキヤ否ヤ又交換スルノ方法ハ同階級ノモノヲ以テ  
 スヘキコト等總テノ條件ハ交戦國間ノ約定ニ由リテ決スヘキモノニテブルツモ  
 ル宣言第三十條ニ於テモ俘虜交換ニ關スル條件ハ交戦國ノ合意ヲ以テ規定ス  
 ヘキコトヲ明定シ普通俘虜ノ階級資格並ニ能力ニ從ヒ互ニ權衡ヲ有スル交換  
 ヲ爲スヘキモノトス然レトモ交換ニ於テ完全ナル衡平ヲ保ツコトハ甚タ困難  
 ニシテ例ヘハ同格ノ士官ニ於テモ體力能力ニ不平均ナキコト能ハズ又兵士ニ  
 於テモ熟練シタルモノハ不熟練ナルモノヨリ一層價值多キカ如シ而シテ俘虜  
 交換ハ素ト交戦國間ニ於テ戰争ニ關スル當事者ノ權利ヲ互ニ害スルコトナク  
 シテ戰争ノ荼毒ヲ戒却セントスル誠意ニ出テタル約束ナルヲ以テ其約定ハ交

戰國雙方ニ於テ嚴重ナル誠意ヲ以テ履行スルヲ要シ互ニ敵國ニ送還スル俘  
 虜ニ對シ成ル可ク同等ナル俘虜ヲ以テ交換スルハ決マテ價值少キモノヲ提供  
 スルコト能ハズ若シ又斯ル不法行為爲アルニ於テハ何時ニテモ對手國ハ其  
 約定ニ規定スル利益ヲ與フルコトヲ得ルヲ得ルキノモオラス報仇ノ行為ヲ其國  
 ニ對シテ爲レ得ヘキモ尠クシテ英國人ハ同國ノ戰國人ニ對シテハ其  
 此俘虜交換ノ點ニ關シテ問題ノ生シタル例ヲ舉ゲレバ千七百七十七年米國獨  
 立戰爭ニ於テ英米兩國ハ契約ヲ以テ士官ハ士官ニ對シ兵士ハ兵士ニ對シ市民  
 ハ市民ニ對シテ其俘虜ヲ互ニ交換セントシ規定ヲ爲シタリシカ米國ハ英國ヨ  
 リ送還セル俘虜ノ多數ハ交換ノ價值ヲ有セズ且其英國軍隊ニ拘留中苛酷ノ待  
 遇ニ依リ其身體ノ羸弱ヲ來シタルモノナルコトヲ非難セルニ英國軍隊司令官  
 ハ之ニ答ヘテ其苛酷ノ待遇アリタルニ非ズシテ戰爭中米國軍隊ニ疫病流行  
 シタルヲ以テ俘虜ノ衰弱ヲ來シタルコトヲ主張セルモ人情ノ法則ニ反シ又ハ  
 故意ニ出テ或ハ相當ノ注意ヲ缺キテ以テ敵國俘虜ヲ衰弱セシメタルニ於テハ  
 其交換ニ付キ健全ナル俘虜ノ引渡シ之ニ對シテ請求スル能ハサルハ國際公法

上ノ法則タルコトヲ承認セリ又體力及能力ニ付キ問題ノ起リタルハ千八百十  
 年英佛兩國カ其俘虜ヲ交換セントスルニ當リ佛國ハ一万千四百五十八人ノ英  
 國兵士ト五百人ノ英國人民並ニ三万八千三百五十五人ノ西班牙人ヲ俘虜ト爲  
 シ居リ英國ハ四万三千七百七十四人ノ佛國兵士並ニ水夫ノ外ニ二千七百人ノ  
 蘭人丁抹人及露國人ヲ俘虜トシテ有シタリシカ英國政府ハ英國人ト佛國人ノ  
 俘虜ニ限リ交換ヲ申込ミナボレオン一世ハ西班牙國ハ英國ノ同盟ナルヲ以テ  
 同國人モ英國人ト均シク交換セシトシ三名ノ佛國人ニ對シ英國人一名ト西班  
 牙人二名ト互ニ交換セント答ヘタルニ英國政府ハ英佛人ト西班牙人ノ間ニ於  
 テハ能力ノ差異アル理由ヲ以テ之ヲ拒ミタルモ遂ニ英國政府ハ其人民ヲ取戻  
 サントノ熱心ヨリシテ其交換ハ先ツ英國人ハ同數ノ佛國人ヨリ始メントノ條  
 件ヲ以テ佛國ノ請求ニ應諾セルニ佛國ハ其條件ヲ承諾セスシテ協議モ破レタ  
 リ斯ク交換ニ於テハ俘虜ノ資格階級并ニ能力健康等ニ就キ互ニ同一ナルモノ  
 ヲ交換スヘキニ由リ士官ニ對シテハ兵士ノ數名ヲ以テスルカ如キ階級ノ高キ  
 モノニ對シテ下級ノモノ多數ヲ以テスルコトヲ得ヘク第十七世紀中ニ於ケル

一般ノ慣例トシテハ將官ハ兵士六十名若シテハ六十磅ヲ以テセリ又俘虜ノ數  
 同一ナラサルトキハ前述ノ如ク殘餘ニ對シ時トシテハ金錢物品ヲ以テ之ヲ償  
 フコトナキニ非ス而シテ一般ノ慣例トシテ俘虜交換條約中ニ特別ナル規定ヲ  
 設ケサル場合ニ於テハ其交換ニ係ル俘虜ハ同戰爭中ニ取關ニ從事セサルヲ以  
 テ通則トス

第三 解放

俘虜ノ解放ニハ單純ノ解放ト宣誓解放ノ二種アリ單純ノ解放ト云フハ其解放  
 ニ關シ何タル條件ヲ付セサルモノ、謂ニシテ俘虜ヲ解放スルハ元ト捕收國ノ  
 恩惠ニ出ツルコトナレトモ時トシテハ捕收國ニ取リテ之ヲ拘留スルハ却テ自  
 國ニ不利益ナル場合ナキニ非ス又軍路上或ハ政略上ノ必要ヨリシテ止ムヲ得  
 ス其俘虜ヲ解放スルトキナキニ非ス斯ル場合ニ於テハ其解放ニ付キ何タル條  
 件ヲ宣誓セシムルコト能ハスシテ縱令宣誓ニ由ラサル條件ヲ其俘虜ニ申渡シ  
 テ解放スルモ何タル義務ヲモ之ニ付スルコト能ハス此場合ニ於テハ其解放ニ  
 係ル俘虜ハ真正ナル恩惠的ノ解放ト均シク全然自由ノ身體ト爲リ捕收國ノ保

讓ヲ受ケテ本國ニ歸ルコトヲ得ルヲ歸國後ニ於テ其行為ニ付キ制タル義務  
 ヲ負ハサルモノトスルニシテ其義務ニシテハ其義務ニシテハ其義務ニシテハ  
 之ニ反シテ宣誓解放トハ捕收國ハ其俘虜ノ神ニ對シテ宣誓シ又ハ名譽ニ訴ヘテ  
 宣誓スル條件ニ由リテ其拘留ヲ解キ又ハ本國ニ歸ラシムルモノニシテ其拘留  
 ヲ解放スル場合ニ於テハ特定シタル境界ヲ越エテ他ニ出テサルノ宣誓ヲ以テ  
 一定ノ地方内ニ自由ニ生活スルコトヲ得セシメ又歸國セシムル場合ニ於テハ  
 一定ノ時日間或ハ其戰爭ノ繼續間ハ捕收國又ハ其同盟國ニ武器ヲ取リテ反抗  
 セサルノ條件ヲ以テ解放スルモノトス而シテ斯ル宣誓ヲ爲スト否トハ俘虜ノ  
 自由ニ屬シ捕收國ハ敵國俘虜ニ宣誓ヲ強迫シテ解放スルコト能ハサルト同時  
 ニ俘虜ヨリシテモ捕收國ニ向ヒ宣誓解放ヲ要請スルノ權利ヲ有セス更ニ又俘  
 虜ノ任意ニ宣誓シ歸國ヲ許サレシメタルニ付テハ本國ニ於テ其宣誓解放ヲ禁  
 メサル場合ナラサルヘカラスシテ本國政府ニテ其俘虜ノ敵國ニ在ルモノニ對  
 シ宣誓ノ條件ヲ承認セサルトキハ俘虜自身ニ取リ其宣誓ヲ爲スヘカラスナルノ  
 ミナラス其宣誓ヲ以テ歸國スルホキハ再セ敵國ニ歸リ俘虜ニ就クノ義務ヲ有

シ本國政府モ之ヲ妨クヘカラスナルモノトシテ其義務ニシテハ其義務ニシテハ  
 解放俘虜ノ敵國ニ與ヘタル宣誓ハ嚴正ニ遵守スヘキモノニシテ之ヲ破リタルト  
 キハ本國軍隊ノ不名譽ナレバ本國政府ノ之ヲ罰スルト否トハ姑ク措キ再ヒ敵  
 國ニ捕ハル、トキハ軍法裁判ニ由リ普通死刑ニ處セラル、モノトス又宣誓解  
 放ノ俘虜ニ對シテハ歸國後本國政府ヘ其宣誓ニ反スル行為ヲ之ニ責ムルコト能  
 ハス若クハ俘虜ノ斯ル行為ヲナスヘキ請求モ容ル、コト能ハス換言セバ俘虜  
 ノ敵國ニ與ヘタル宣誓ハ本國政府モ俘虜ニ之ヲ守ラシムル責任ヲ有スルモノ  
 タリ而シテ交戰國ニ於テ俘虜ヲ解放歸國セシムルノ宣誓ノ條件ハ其俘虜ヲ自  
 國ニ拘留スルノ權利ニ伴フヘキ範圍内ニ在ルヘキモノナレバ其本國ニ反對ノ  
 行為ヲ爲スヘキ條件ヲ付スルコト能ハサルハ論ナキ所ナレトモ平和ニ至ル迄  
 ハ本國政府ノ事務ニ從事スルコト能ハサルヲモ條件ト爲シ得ヘキカ如シ然レ  
 トモ此點ニ關シテハ國際公法上ノ慣例アリテ宣誓ノ條件ハ普通斯ク嚴重ナル  
 程度迄ヲ要求セスシテ其俘虜ノ同戰爭中自國軍隊又ハ自國ニ同盟國ノ軍隊ニ  
 對シテ直接ノ反抗ヲ爲サ、ラシムルニ止マテ内政又ハ外交ノ業務ニ從事セズ



戰地以外ニ於ケル軍務ニ力ヲ盡シ間接ニ敵軍ノ勢力ヲ増殖シ其進軍又ハ防衛ノ準備ヲ爲スノ事務ニ從事スルハ禁スル所ニ非ス隨テ解放ニ係ル俘虜ノ戰地ヲ離レテ援兵ヲ募集又ハ訓練シ或ハ戰地以外ノ場所ヲ警護シ其他戰場以外ノ軍務ニ從事スルヲ得ヘク又俘虜ハ軍ニ戰爭中安全ニ自國ニ拘留シ得ルニ止マル性質ヲ有スルニ由リ其解放ノ宣誓モ亦其俘虜ヲシテ戰爭後ニ於テモ之ヲ拘束スルノ條件ヲ付スルコト能ハス隨テ一定ノ時日間自國ニ反抗セサル約束ニ由リ解放セラレタル場合ニ於テモ其時期滿了前ニ現在ノ戰爭終了ヲタルトキハ其時期ヲ俟タスシテ自由ノ身ト爲リ其約定期限内ニ更ニ兩國ニ新規ナル戰爭ノ開始シタル場合ニ於テハ約定時日中ニ於テモ戰爭ニ從事シ得ヘキモノトス

第三節 病者負傷者及死亡者

第一項 病者負傷者ノ地位

昔時ノ戰爭ニテハ敵國戰闘者ノ疾病又ハ負傷シタルモノハ其携帶品ヲ剽奪セラレテ殺戮ヲ蒙ルヲ常トシ自國軍隊ノ病者負傷者ト雖モ戰場ヲ遁レ出テ近傍ノ人民ニ救ハレマコトアルヘキモノ千九百年十字軍第三期エーケル襲撃ニ際

ルモノハ後ニ詳説スルカ如ク貨幣偽造罪又ハ私文書偽造罪ト異ナリ偽造ト使用トハ各一罪ヲ爲スモノナルカ故ニ各自獨立シテ各共犯アリ未遂犯アリト雖モ一人ニテ二者ヲ兼テ犯シタルトキハ同シク一個ノ意思ヨリ出テタル所爲ニシテ行使ハ偽造ノ結果ナルカ故ニ偽造ノ一罪ナリトス

第二項 官印ノ影蹟ヲ盗用スル罪

第九十七條ニ曰ク御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盗用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シト即チ本罪ヲ構成スル爲メニハ

第三節 意思アルコト

第一ノ要素 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟タルコト  
 (一) 茲ニ官印記號印章トアルハ第九十五條ニ各官署ノ印第九十六條ニ產物商品又ハ書籍什物等ニ押用スル記號印章トアルヲ節約シタルモノニシテ



テ官印トハ各官署ノ官印記號印章トハ產物商品又ハ書籍什物等ニ押用ス  
 (一)官印ヲ云フ其詳細ハ前項已ニ之ヲ説明セリ官署ノ官印百六十六條ニ據  
 (二)形蹟トアリテ印願タルヲ要セザルカ故ニ已ニ押捺シアル印影モ亦本罪ノ  
 目的タル可キ

第二ノ要素ニ盜用ヲ所爲アルコト

本罪ノ規定ニ相當スル佛文草案第二百三十二條(Quiconque aura fait une apposi-  
 tion illicite et un usage frauduleux (不法ニ押捺シ惡意ヲ以テ使用シタル者)トアリ  
 テ盜用トハ之ヲ節譯シタルノ語ナルカ故ニ盜トハ不法ニ押捺スルノ義用ト  
 ハ惡意ヲ以テ使用スルノ義ナリ(一)不法ニ押捺スルノ義ナルカ故ニ印願ヲ盜  
 ミテ之ヲ押用ス可カラサル書類其他ノ物件ニ押用シ已ニ押用シアル白紙ニ  
 記載ス可カラサル事項ヲ記載シ又ハ已ニ正當ニ押用シアル印影ヲ切り取り  
 テ押用ス可カラサル書類又ハ其他ノ物件ニ貼付スルハ勿論、監守者ヲ欺罔シ  
 テ不法ニ押捺セシメタルモ亦盜奪ノ所爲タリ(二)用即チ使用ニ付テハ前項説  
 明スル所ニ同シ

法律ニハ盜用トアリテ盜奪ト使用トノ所用アルヲ要スルカ故ニ盜奪スルモ  
 使用セズ使用スルモ盜奪セザレハ本罪ノ完成ヲ妨ク可シ夫ノ或學者カ第百  
 九十四條乃至第百九十六條ニ於テハ偽造ト使用ト各一罪ヲ構成スルカ故ニ  
 本罪ノ規定ニ於テモ亦盜ト用ト各一罪ヲ構成スルモノナリト解釋セシムハ  
 權衡ヲ失スト云フカ如キハ立法的補充解釋ノミ眞正ノ解釋ニ非ス

第三ノ要素 意思アルコト

意思ニ付テハ不法ニ押捺シテ信用ヲ害スル所爲ヲ爲スノ意思アルヲ要ス詳  
 細ハ先ニ説明シタル所ヲ参照ス可シ一學說上ニ據テハ重罪ニ據テ正則  
 處分ニ付テハ前數條即チ第百九十四條乃至第百九十六條ノ區別ニ從フ  
 ト同時ニ監守ノ職責アル者ト否トヲ分チ監守ノ職責ナキ者ノ爲ニ所爲ニ係  
 ルトキハ偽造ノ刑ヨリ一等ヲ減シ監守ノ職責アル者ノ所爲ニ係ルトキハ偽  
 造ノ刑ヲ科ス別ニ説明ス可キモノナシ唯第百七十六條ニ於テハ監守者其懈  
 怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル  
 トキ之ヲ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スルノ規定アルニモ拘ハラズ本條

（第一九七條之ニ類似ナルノ規定ヲモテ余ハ其何ノ故タルヲ知ラズ

第二款 各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ノ偽造

第一項 各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽

造又ハ使用スル罪

第九十八條ニ曰ク官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス下即チ本罪ヲ構成スルニハ

第一 所爲ノ目的物ハ各種ノ印紙界紙又ハ郵便切手ニ關スルコト

第二 偽造變造又ハ使用ノ所爲アルコト

第三 意思アルコト

第一ノ要素 所爲ノ目的物ハ各種ノ印紙界紙又ハ郵便切手ニ關スルコト

一、各種ノ印紙、各種ノ印紙トハ證券、煙草、賣藥、訴訟登記印紙等ヲ云フ二、各種ノ界紙管テ證券界紙、訴訟用界紙、訴訟等ニ用フル界紙、裁判用界紙、裁判言渡書ニ

用フル界紙ナルモノアリシカ今ハ廢止セラレタナリ殘ル所ハ手形用紙ノ類

ノミナラン三、郵便切手諸君ノ平素目撃セラレ、所説明ヲ要セス切手ト同性質ナル封皮、葉書及ヒ帶紙ノ偽造變造使用ハ郵便條例第二百三十三條ノ規定スル所ニシテ本罪ノ處分ト相同シ

第二ノ要素 偽造變造又ハ使用

一、偽造變造印紙界紙切手皆紙幣ト其體裁ヲ同シウス依テ之カ偽造變造ノ所爲

ハ紙幣ニ關スルモノト同シ、説明ヲ觀ヒス、先ニ説明シタル所ヲ參照シテ自得

セラル可シニ、使用變ニ偽造變造官印ノ使用ニ付テ説明シタル如ク使用トハ

之ヲ尋常一般ノ意味ニ解スルトキハ之ヲ使用シテ證書ヲ作製シ（證券印紙界

紙物品ヲ販賣シ煙草又ハ賣藥印紙、訴狀又ハ請求書ヲ差出シ訴訟又ハ登記印

紙若クハ郵便物ヲ發送）相當官吏ニ交付シ又ハ其郵便函ニ投スルコト（郵便

印紙）スルノ義ナレトモ此等ノ印紙界紙ハ右ニ所謂使用ノ外管ニ廣ク販賣ノ

目的トナルノミナラス往々紙幣ト同シク貨幣ニ代用セラレ、コトアリテ情

ニ於テ不問ニ付ス可カラナルト本條ニ相當スル佛文第一章案第二百三十一

條 n' auront mis en circulation lesdits timbres contrefaits ou en auront fait un usage fraudéux (即チ又ハ之ヲ流通ニ置キ若クハ使用シタル者下アリテ所謂使用ノ外更ニ流通ニ置クモノヲモ豫見スルヲ以テ之ヲ觀レハ茲ニ使用トハ普通所謂使用ノ外之ヲ流通セシムルノ所爲ヲモ亦包含セシメタルノ語ニシテ夫ノ情ヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ貨幣ニ代用スルノ所爲モ亦本罪ヲ構成スルモノト解スルヲ可トセンカ)

第三ノ要素 意思アルコト 説明ヲ省ク

處分 一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス亦説明ヲ須ヒス

終ニ臨ミ一言ス一本條規定スル所ノ罪ノ目的物ハ皆徵稅ノ目的ヲ以テ制定セラレタルモノニ關スルカ故ニ性質ニ於テハ大ニ異ナル所アルモ明治二十年七月二十三日勅令第三十六號流入紙製造取締規則第二條ニ「紙幣兌換銀行券公債證書大藏省證券其他政府發行ノ證書類似ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ流入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ

處ス」トノ規定アリ些カ參看ニ供ス二貨幣偽造罪ニ付テハ輸入收受ヲ罰スルノ規定アルモ本罪ニ付テハ之ヲ缺如ス例ナキニ因ル可シト雖モ些カ周到ヲ缺カシテ製造スル者ハ本罪ニ當リ

第二項 各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用スル罪

第九十九條ニ曰ク已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス」ト本罪ヲ構成スル爲メニハ

第一 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手タルコト

第二 再ヒ貼用シタル所爲アルコト

第三 意思アルコト

第一ノ要素 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手タルコト

印紙切手ハ説明ヲ須ヒス貼用ハ猶ホ使用ノ如シ已ニ貼用シタルトハ已ニ一タヒ證書訴狀又ハ郵便物等凡テ之ヲ要ス可キモノニ貼附シテ印紙切手ノ用ヲ盡シタルコトヲ云フ故ニ(一)已ニ一タヒ其用ヲ盡サンカ假令消印ナキモ已ニ

貼用シタルモノヲ失ハズ蓋シ消印ハ其用ヲ盡シタルノ證ニ過キサレハナリ(二)反對ニ未タ一度モ其用ヲ盡サ、ランカ假令一度或物件貼附ス可カラサルモノハ勿論貼附ス可キモノト雖モ貼附シ又ハ消印アルモ已ニ貼用シタルモノト云フヲ得ス

第二ノ要素ニ再貼用シタル所爲アルコト

前段説明スル所ニ依テ十分ナリ更ニ講説セス然レトモ唯一言注意ス可キハ一、再貼用スルトハ同一ノ人カ再度貼用シタルコトヲ云フニ非スシテ二回目ノ貼用ヲ爲スト云フノ義ナルカ故ニ先キニ貼用シタル人ト再貼用シタル人トノ同一ナルト否トハ本罪ノ構成ニ何等ノ關係ヲ有セズ二、再貼用スルトハ再度同一ノ用ヲ盡サシムルコトヲ云フノ義ナルカ故ニ夫ノ例ヘハ已ニ其用ヲ盡シタル物件ノ上ニ貼用セラレタル印紙中偶ハ消印ナキモノアルヲ發見シテ之ヲ竊取シ空地ヲ充填スルニ古印紙ヲ以テシタルカ如キハ單ニ罪蹟ヲ蔽ハシカ爲メニ印紙ノ貼附アル可キ場所ニ古印紙ヲ貼附シタリト云フノミニシテ印紙自體ノ用ヲ再ヒ充タシメタルモノニ非サルカ故ニ茲ニ

所謂再貼用ニ非ス

第三ノ要素 意思アルコト

已ニ貼用シタルモノタルノ情ヲ知リナカラ之ヲ再ヒ其用ヲ盡サシムルノ意思アルヲ要ス説明ヲ要セスシテ明ナリ

處分ニ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス罰金ニ處スル所以ハ本條ノ所爲タル多クハ納税ノ義務ヲ免レントノ意ニ出ツルモノニシテ其性質第百九十三條ノ所爲ト相類似スレハナリ

終ニ一言ス印紙再貼用ハ必ス印紙ノ不足ヲ隨伴スルモノニシテ再貼用ノ規定ハソレ自身印紙不足ノ結果ヲ包含スルモノナルカ故ニ印紙再貼用ノ所爲ハ本條ト證券印稅規則第十九條違反トノ俱發ヲ以テ論スルコトヲ得サルモノトス

附款 本節ノ各罪ニ共通ノ規定

第一 第二百條此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯ノ例ニ照シテ處斷ス

第二 第二百一條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

トアリ然レトモ此二條ハ恐ラク第百九十八條ト第百九十九條ノ間ニ置クヘキモノニシテ之ヲ本節ノ各條ニ共通セシメタルハ蓋シ錯誤ニ出テタルモノナラシ如何トナレハ第百九十九條ノ罪ノ如キハ罪質輕微加フルニ罰金刑ナルニ監視ヲ付ス可キ理由ナクレハナリ(刑法第三十四條第四十條明治十五年十月廿八日司法省內訓參照)

### 第三節 文書偽造罪

講義ニ先チ一言ス先キニモ講述シタル如ク我刑法ハ編纂ノ体裁極メテ粗笨官印ヲ偽造スル罪ト題スル節目ノ中ニ紙幣又ハ公債證書等ニ準スヘキ印紙界紙郵便切手等ノ偽造變造ニ關スル罪ヲ混入シ已ニ官印ノ偽造ト官文書ノ偽造變造トハ各其節目ヲ異ニセルニモ拘ハラズ私印ノ偽造ト私文書ノ偽造變造トハ之ヲ同一節目ノ中ニ併セ規定シ既ニ官文書ノ偽造變造ト私文書ノ偽造變造トハ各其節目ヲ異ニセルニモ拘ハラズ通常官文書ノ一種タル免狀又ハ鑑札ノ偽造

變造ト通常私文書ノ一種タル疾病證書ノ偽造變造トハ官私文書ノ偽造變造ニ關スル節目ノ外ニ於テ別ニ一節ヲ設ケテ之ヲ規定セリ若シ論理ヲ正シ秩序的ニ編纂セハ第二節以下ニ規定シタルモノ、中例ヘハ印紙界紙郵便切手等ノ偽造變造ニ關スル行爲ハ貨幣偽造罪ト併セ若クハ對立シテ規定シ以テ印章ト文書トヲ分ツト同時ニ官私ヲ併括シテ規定スルヲ可トス隨テ説明ノ順序モ亦理論的排列ニ依ルヘキ筈ナレトモ著シク法文ト異ナリタリ順序ニ依ルトキハ却テ講究ノ便ヲ失ハシムルノ恐アルカ故ニ可成的明文ノ順序ニ依ルハ同時ニ些カ説明ノ便ヲ計リ茲ニ余ハ本節ノ如キ表題ヲ設ケ其下ニ於テ法文第三節乃至第五節ノ規定ヲ説明セント欲ス

**第一款 文書偽造罪ノ一般ノ成立要素**

文書ノ偽造變造ニ關スル一般ノ成立要素ヲ知ルニハ先ツ文書偽造變造罪ノ何者タルヤヲ知得セタルヘカラス故ニ余ハ先ツ文書偽造罪ノ定義ヲ示シ漸次之ヲ分拆シテ其成立要素ヲ説明セント欲ス

文書偽造罪ノ定義 我國ノ所謂文書偽造罪ニ何者タルヤニ付テハ從來學說紛

本歸一スル所ヲ知ラサルモノニア余ハ茲ニ其歸一セサルヘカラサル所以ヲ明ニセシカ爲メ綱ヲ立テ目ヲ逐テ之ヲ説明セント欲ス

熱ラ案スルニ文書ナルモノハ言語若クハ動作ト同シク或事實若クハ思想ヲ他ニ發表スルノ機關トス是ニ於テヤ事實又ハ思想ヲ表示スル所ノ機關ニシテ正確ナルトキハ其之ニ依テ表示セラル、所ノ事實又ハ思想モ亦自ラ正實ナルヘシト云フノ思想ヨリシテ專ラ機關ノ真正ヲ希ヒ機關即チ形體ノ真正ヲ保護セントノ思想即チ形式ヨリ觀察シタル思想ト文書ハ單ニ或事實又ハ思想ヲ表示スルノ機關ニ過キスシテ文書ノ真正ヲ希フハ畢竟事實又ハ思想ノ真正ヲ希フカ爲メニ外ナラナルカ故ニ文書ニ依テ表示セラル、所ノ事實又ハ思想タニ真正ナルトキハ其機關タル文書其モノ、真正ハ措テ問ハストノ思想即チ實價ヨリ觀察シタル思想トノ二ヲ生ス前者ノ思想ニ依テ立法スル者ハ文書ヲ以テ單ニ事實又ハ思想ヲ表示スル機關タルニ止マラス進テ動カス可カラサル一ノ形式ト看做シ之ヲ僞ルノ罪ヲ以テ文書ト云フ形式ヲ僞ルノ罪トシ後者ノ思想ニ依テ立法スル者ハ文書ヲ以テ言語又ハ動作ノ如ク事實又ハ思想ヲ表示スル

ノ機關又ハ手段ニ過キストシ之ヲ僞ルノ罪ヲ以テ文書ニ憑リ眞實ヲ詐ルノ罪トス

尙ホ了解ニ便ナラシメンカ爲メ文書偽造罪ノ定義ニ關スル立法上ノ二大主義ヲ摘示セン

甲 文書偽造罪トハ或事實又ハ思想ヲ表示スル機關タル文書其モノ(即チ形體)ヲ僞ルノ所爲ニシテ之ヲ構成スルニハ(一)他人ヲ欺キ以テ真正ノ文書形式ノ眞正ナル文書ナリト誤信セシムルノ意思ト(二)他人ヲ欺クニ足ルヘキ僞文書ヲ作製スルノ所爲トノ二要素ヲ具備スルヲ以テ十分トス

乙 文書偽造罪トハ文書ニ憑テ文書ノ證明セントスル事實又ハ思想ノ眞實即チ事實ヲ僞ルノ行爲ニシテ之ヲ構成スルニハ(一)他人ヲ欺キテ文書カ表示スル事實ヲ眞正ナリト誤信セシムルノ意思ト(二)虛僞ノ事實ヲ記載シタル文書ヲ作製スルノ所爲トノ二要素ヲ具備スルヲ以テ十分トス

(甲)ハ獨逸刑法(支那刑法及ヒ我徳川百个條ノ如キ亦或ハ然ラン)其他獨逸主義ヲ採用スル諸國刑法ニ於テ認めラル、モノニシテ(乙)ハ羅馬法佛國古法佛國刑

法其他佛國主義ヲ採用スル諸國刑法ニ於テ認メタルモノタリ而シテ此二主義ハ其孰レヲ採用スルモ單ニ純理ノミヲ逐フテ立法スルトキハ其應用ニ困難ヲ感スルコトナカルヘシト雖モ事實ニ於テハ實ニ忍フヘカラサル結果ヲ生スルコトアリ蓋シ純理一片ニヨリテ主義ヲ貫徹スルトキハ例ヘハ一片ノ端書又ハ戲文書ノ如キ作製者ニ於テ他人ヲ害セントノ惡意ナキハ勿論何等ノ實害モ生スルコトナキモ尙ホ之ヲ罰セサルヘカラサルノ結果ヲ生スレハナリ是ニ於テヤ孰レノ主義ヲ採用スル立法ニ於テモ多少ノ制限ヲ置キテ之ヲ和ケサルモノナシ即チ甲ノ主義ヲ採用シテ立法スルモノハ偽造セラル、文書其モノカ多少重要ナルモノ例ヘハ權利義務ノ消長ニ關スルカ如キタルコトヲ要シ縱令文書其モノ、形式ヲ偽ルモ一片ノ端書若クハ戲文書例ヘハ娼妓ノ付ケ文花見ノ誘引文ノ如キ權利義務ノ消長ニ格別ノ關係ヲ有セサル性質ノ文書ニ係ルモノハソレ自身實害ノ生セサルモノト推定シテ之ヲ除外シ乙ノ主義ヲ採用シテ立法スルモノハ之ニ依テ事實ノ真正ヲ偽リ以テ不正ニ他ヲ害スルノ意思アルコトヲ要シ縱令文書ニ依テ事實ノ真實ヲ偽ルモ一時ノ戲謔ニ出ツルモノ又

ハ不在者ノ利益ヲ保全セシカ爲メ其委任狀ヲ偽造シ預金ヲ取立テ之ヲ不在者ニ交付シ同時ニ不在者ヨリ預リ主ニ對シ代人ニ依テ預金ヲ受取リタルコトヲ通知セシメタルカ如キ毫モ他ヲ害スルノ意思ナキモノハ之ヲ除外セリ尙ホ了解ニ便ナランカ爲メ文書偽造罪ニ關シ諸國ノ刑法カ規定スル實際ノ立法例ヲ摘示セン

甲ノ二 文書偽造罪トハ法律關係上多少重要ナル文書其モノ形態ヲ偽ルノ所爲ナリ隨テ之ヲ構成スルニハ單ニ(一)文書ノ形式ヲ偽ル所爲ト(二)之ヲ以テ他人ヲ欺ク意思アルノミヲ以テ足レリトセス進テ(三)其文書ハ法律關係上多少重要ナル文書即チ性質上實害ヲ生セシムルニ足ルヘキ若シ偽造變造ナリトセハ文書ニ係ルコトヲ要ス

乙ノ二 文書偽造罪トハ文書ニ依テ文書カ證明セントスル事實ノ真正ヲ偽リ以テ他人ヲ害スルノ所爲若クハ害ヲ生セシムルノ所爲ナリ隨テ之ヲ構成スルニハ單ニ(一)文書ニ憑テ事實ノ真正ヲ偽ル所爲ト(二)他人ヲ欺ク意思アルノミヲ以テ足レリトセス進テ(三)他人ニ害ヲ生シ得ヘキコト即チ實害ヲ生スル



ノ危険アルコト随テ他人ヲ害スルノ意思アルコトヲ要ス  
 前述ノ如クニ二個ノ主義孰レモ單純ニ之ヲ敷衍シテ何等ノ制限ヲモ設ケルコ  
 トナクハ其適用ニ於テハ何等ノ困難ヲ見ルコト無ク文書偽造罪ホト規定ノ  
 簡且明ナルモノハナカルヘシ蓋シ甲主義ニ於テハ文書ノ形式カ眞實ナラザレ  
 ハ直ニ罪ヲ構成シ乙主義ニ於テハ文書ノ事實カ眞實ナラザレハ直ニ罪ヲ構成  
 スルノ結果裁判官ハ單ニ文書又ハ事實カ眞正ナルヤ否ト云フ簡單ナル問題ヲ  
 審査スルノ外他ニ調査ヲ要スヘキノ點ナケレハナリ然ルニ右ノ如ク二個ノ主  
 義何レモ實際ノ事情ヲ斟酌シ多少ノ制限ヲ設ケタルノ結果文書偽造罪ハ刑法  
 ノ規定中最モ難解ノ規定ト爲ルニ至レリ蓋シ甲ノ主義ニ於テ荷モ文書ト云フ  
 以上ハ其自身多少必要ナキモノアラサルニ拘ハラズ法律ハ尙ホ進シテ法律關  
 係上多少重要ナルモノニ係ルコトヲ要ステフ制限ヲ設ケルノ結果普通ノ必  
 要ト法律關係上ノ必要トハ此カ經界ヲ求メント欲スルモ遂ニ程度ノ問題ニ歸  
 着シテ捕捉スヘカラサルニ至ルヘク乙ノ主義ニ於テモ亦凡ソ眞實ヲ僞ルノ事  
 タル縱令一時ノ戲謔ニモセヨソレ自身多少ノ實害無形の若クハ精神的ヲ生ス

可キモノタルニ拘ハラズ法律ハ尙ホ進シテ實害即チ感情的害惡ニ止マラズ  
 吾人ノ利益又ハ幸福ヲ亡失セシム可キ害ヲ生ス可キコトヲ要ステフ制限ヲ設  
 ケルノ結果感情即チ精神的害惡ト實質的害惡ノ標界ハ之ヲ求メント欲スルモ  
 遂ニ程度ノ區別ニ歸着シ捕捉ス可カラサルニ至ル故ニ現今諸國ノ規定ニ於テ  
 文書偽造罪ノ解釋ニ困難ナルハ之ヲ解スル者ノ不明ニ非スシテ規定自體ノ不  
 明ナルニ因ル隨テ之ヲ解釋スル者ハ其規定ノ不明ナルコト及ヒ其不明ナル所  
 以ヲ明ニセハ足レリ後段余カ說明亦此ノ如キモノアリ止ムヲ得サルニ出ツ請  
 フ幸ニ咎ムル勿レ

以上予ハ文書偽造ノ本質ヲ明ニシ之ニ應ス可キニ主義及ヒ其制限ヲ說明セリ  
 是ヨリ立法上ニ主義ノ可否及ヒ我刑法ノ主義ヲ說明セシ

第一 立法上此ニ主義ハ孰レヲ可トス可キヤ 乙ノ主義ハ文書ハ眞實ヲ表示  
 スルノ具ナリト云フ文書ノ本質ニ適スルカ故ニ純理上周ヨリ正當ナル可シ  
 ト雖モ(シヨラペンハウエル)所謂目的ハ手段ヲ恕ス(ト)格言ハ展、弊害アル  
 カ如ク若シ實質タニ眞正ナルトキハ形式ノ眞僞ハ措テ之ヲ問ハストモハ人



カ之ニ憑テ確信ヲ惹起ス可キ材料タル文書ノ形式ヲ攪亂シテ玉石相錯ナルノ結果其目的タル事實ノ真實モ亦十分ナル保護ヲ受クル能ハサルニ至ル可シ之ニ反シ甲ノ主義ハ文書ノ本質ニ適セサルカ故ニ固ヨリソレ自身正當ノモノナリト云フコトヲ得スト雖モ涙ヲ揮テ馬讓ヲ斬ルノ筆法ハ軍規ヲ正シ隨テ其目的タル軍務ヲ強固ナラシムルノ利アルト一般文書ノ形式ヲモ尙ホ之ヲ尙モセサルノ結果其目的タル事實ノ真實モ亦能ク完全ナル保護ヲ受クルヲ得可キヲ以テ立法上ノ主義トシテハ甲ノ主義ヲ採用スルヲ以テ其宜キキヲ得ルモノト確信ス

第二 然ラハ解釋上我刑法ハ二主義其孰レヲ採用シタルヤ (一)我刑法ハ佛國刑法ヲ研究シタル慕氏ノ立案ニ成リタルモノニシテ現ニ明治十年司法省ヨリ元老院ニ提出セル氏ノ佛文草案第二百三十七條以下即チ確定法文第二百二條以下文書偽造罪ノ各條ニ相當スル法文中ニハ何レニ於テモ *Uriage Arcané* (惡意又ハ詐欺ノ使用)ナル文字アルト(二)當時ニ在テハ裁判官ノ解釋權ヲ羈束スルノ力ヲ有セシ明治十六年四月司法省內訓ニ文書ヲ偽造シ又ハ増

減變換シテ行使スルノ罪ヲ構成スルニハ必ス真實ヲ變換スルコト他人ニ害ヲ加フルノ意思及ヒ害ヲ生ズルヲ得可キコトヲ要ス故ニ之ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使スルモ人ニ害ヲ加フルノ意思ナク若クハ害ヲ生ズルコトヲ得可カラサル事件ニ係ルトキハ此等ノ罪ヲ以テ處分スルノ限ニ在ラス因テ裁判官ニ於テハ各事件ニ付キ此條件ノ有無ヲ審究シ相當ノ裁判ヲ與フ可シ云々トアルト(三)明文第二百五條ニモ官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シトアリテ作製權アル官吏カ虛偽ノ事實ヲ記載シタル文書ヲ作製スルコトモ尙ホ之ヲ稱シテ偽造ト云フト同時ニ第二百九條第二項ニモ亦其手形證書ニ詐欺ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シトアリテ詐欺ノ裏書即チ事實ヲ作りタル裏書ヲ爲スノ行為モ亦偽造ノ一種タルコトヲ明ニセルトニ依テ之ヲ觀レハ我刑法ハ文書ヲ以テ真實ヲ偽ルコトヲ以テ文書偽造罪トスルカ故ニ乙ノ主義ヲ採用シタルモノニシテ之ヲ構成スルニハ佛國刑法ノ如ク害ヲ生シ得可キコト及ヒ害ヲ生セシムルノ意思アルコトヲ要スルヤ疑ヲ容レス

右論述シタル所ニ依リ我刑法ノ所謂偽造罪ナルモノハ乙ノ主義ニ制限ヲ設ケ

タル佛國刑法ト同ク左ノ如ク定義ス可キモノトス曰ク  
 文書偽造罪トハ文書ニ憑テ文書ヲ證明セント欲スル所ノ事實ノ眞實ヲ偽リ  
 以テ害ヲ生セシムルノ所爲ナリ  
 文書偽造罪ノ一般ノ成立要素 右證明シタル所ニ依リ本罪ハ下ノ各要素ヲ以  
 テ成立スルモノトス(一)文書ニ憑ルコト即チ文書ヲ作製シ又ハ増減變換シテ之  
 ニ憑ルコト(二)事實ノ眞實ヲ偽ルコト(三)文書ヲ證明セント欲スル所ノ事實ニ關  
 スルコト(四)害ヲ生シ得可キコト(五)害ヲ生セシムルノ意思アルコト是ナリ  
 第一ノ要素 文書ニ憑ルコト即チ文書ヲ作製シ又ハ増減變換シテ之ニ憑ルコ  
 ト 是レ本罪ノ印章偽造罪又ハ偽證罪等ト區別セラル、要點タリ而シテ假  
 令文書ニ依ルモノト雖モ貨幣ノ如キ印章ノ如キ商標ノノ如キ特別ノ明文  
 アルモノハ本罪ノ範圍外トス  
 法律ハ本罪構成ノ必要條件トシテ文書ヲ作製シ又ハ増減變換シタルコトヲ  
 要スルカ故ニ先ツ文書ノ何者タルヤヲ知得スルコトヲ得ス  
 文書トハ文字ヲ以テ記載シタル諸般ノ記錄(Records)ニシテ或事實又ハ思想

ヲ表示スルモノヲ云フ  
 文字ハ之ヲ表音の文字即チ有ハハ又ハ一ニ三ト云フカ如ク發音ヲ代表スル  
 文字ニシテ發音ノ媒介ニ依リ間接ニ或事實又ハ思想ヲ抽出スルモノト意思  
 的又ハ形象の文字(如△等)ノ如ク直接ニ事物ヲ代表スルモノニシテ常ニ之  
 ニ依リ代表セラル可キ事物ノ形態ヲ抽出スルモノトノ二トスルコトヲ得茲  
 ニ所謂文書トハ表音の文字ヲ以テ記載シタルモノ、ミヲ云フキ將タ形象の  
 文字ヲ以テ記載シタルモノヲモ包含スルヤ法律カ他ノ條項ニ於テ文書ノ外  
 別ニ圖書ナルモノアルコトヲ認ムルニ依テ之ヲ觀レハ前者ノミニ限ル可キ  
 カ如キモ(一)本罪ハ或事實又ハ思想ヲ證明ス可キ記錄。即チ證書ヲ偽ルノ所爲  
 ヲ割シタルモノニシテ(二)表音の文字ヲ以テ記載シタルモノト雖モ例ヘハ詩  
 歌俳偈等ヲ記載シタルモノ、如キ單ニ其書態又ハ風韻等ヲ抽出スルコトヲ  
 主トシタルモノ之ヲ記錄ト云フコトヲ得ルト同時ニ假令形象の文字ヲ以テ  
 記載シタルモノト雖モ例ヘハ山林田野等ノ地理ヲ明ニスルカ爲メニ記載セ  
 ラレタル繪圖ノ如キハ之ヲ記錄ト云ハサル可カラザルトニ依テ之ヲ觀レハ

茲ニ所謂文書トハ他ノ場合第四百十一條第二項所謂文書圖書又ハ第三百五十八條所謂書類圖書ト異リ表音の文字ヲ以テ記載セラレタルモノト形象の文字ヲ以テ記載セラレタルモノトヲ問ハス專ラ或事實又ハ思想ヲ表示スルカ爲メニ記載セラレタルモノ即チ書證ト爲リ得キモノヲ總稱スルモノトス然ラハ書證ト爲リ得キモノハ舉ケテ本罪ノ目的物タルコトヲ得キキヤ此點ニ付テハ更ニ主觀的觀察ヲ以テ之ヲ區別セサル可カラス例ヘハ秀吉ノ墨付那翁ノ書翰ト云フカ如キ元來或事實又ハ思想ヲ表示スルカ爲メニ作製セラレ書證タル可キモノタリト雖モ之ヲ偽造スル者又ハ所持スル者ノ意思ニ因リ一ノ古物又ハ美術品タルニ過キサルコトアルカ故ニ客觀的書證トナル可キモノニ對スル行爲カ文書偽造罪又ハ毀棄罪ヲ構成スルヤ將タ無罪又ハ他罪タルヤハ偏ニ犯人若クハ所持者ノ意思ヨリ主觀的ニ觀察シテ之ヲ決セサル可カラス而シテ偽造罪ハ之ヲ提示セラル者カ證據ヲ誤ラル、ニ因テ害ヲ生シ毀棄罪ハ之ヲ提出スルノ利益ヲ有スル者即チ所持スル者カ證據ヲ亡失スルニ因テ害ヲ生スルカ故ニ偽造罪ニ付テハ犯人ノ意思ヨリ觀察

シ若シ書證ヲ偽ラシカ爲メニ偽造行使スルトキハ本罪ヲ構成シ(一)毀棄罪モ付テハ犯人ノ意思ヲ要ス可キハ勿論ナリト雖モ證據ノ所持者ヨリ觀察シ證據トシテ所持スルトキハ文書毀棄罪ヲ構成シ美術又ハ古物の觀念ヲ以テ所持スルトキハ器物毀棄罪ヲ構成ス然レトモ法律ハ單ニ文書ヲ作製シ又ハ之ヲ増減變換スルコトヲ要スルモノニシテ其文章ヲ記載セル方法又ハ記載セラレタル物ノ如何ヲ制限セサルカ故ニ手ヲ以テ筆寫スルト電信機ノ如ク器械自身ヲ以テ文字ヲ寫出スルト紙織物木乃至金石ノ上ニ抽出スルトニ論ナク本罪ヲ構成ス然レトモ電信ニ依ル場合ニ付テハ其適用多少複雑ナルモノアリ一言注意スヘシ抑モ電信ニ依ル文書ノ偽造變造ニ付テハ先ツ二個ノ場合ヲ想像スルコトヲ得可シ即チ(一)電信技手ニ依テ犯サル、場合(二)技手以外ノ者ニ依テ犯サル、場合是ナリ而シテ二個ノ場合亦各二個ノ場合ヲ想像スルコトヲ得即チ電信技手ニ依テ犯サル、場合ニ付テハ發信局ニ於テ技手カ依頼ナキニ依頼サレタリトシ或ハ依頼サレタル電信文ヲ増減變換シテ打電スルコトアリ受信局ニ於テ技手カ

受取ラサル電報ヲ受取りタリトシ或ハ受取リタル電信文ヲ増減變換シテ配  
 達用紙ニ記載シ之ヲ受信人ニ送達セルコトアリ又技手以外ノ者ニ依テ配  
 レタル場合ニ付テハ技手以外ノ者カ初ヨリ賴信紙ニ詐僞ノ電信文ヲ認メ(有  
 形又ハ無形ノ詐僞ニ依リ)又ハ賴信紙ニ記載シタル他人ノ電信文ヲ増減變換  
 シテ發信局ニ依頼シ依テ虛僞ノ電報ヲ發セザルコトアリ或ハ技手以外ノ  
 者カ送達ヲ受ケザルニ之ヲ受ケタリト稱シテ配達用紙ニ虛僞ノ電信文ヲ記  
 載シ或ハ送達ヲ受ケタル電信文ヲ増減變換シテ受信人其他ノ者ニ提示スル  
 コトアリ此等ノ設例ニ於テ(一)何ナル所爲ヲ以テ文書ノ偽造又ハ變造トシ  
 (二)如何ナル所爲ヲ以テ偽造變造文書ノ行使トス可キヤ(三)官私文書ノ區別ハ  
 何ニ依リテ之ヲ爲ス可キヤノ問題ヲ生ス  
 (一)如何ナル所爲ヲ以テ文書ノ偽造變造トス可キヤ? 行爲カ電信文配達  
 用紙ニ記載セラレ又ハ記載セラレ可キ其モノ、上ニ行ハルキトキハ其電  
 信文ニ偽造又ハ變造ノ行爲ノ行ハレタルトキニ於テ偽造又ハ變造ノ行爲  
 アリトシ行爲カ賴信紙ノ上ニ行ハレタルトキハ賴信紙ヲ偽造又ハ變造シ

タルトキヲ以テ偽造又ハ變造ノ行爲アリトス之ニ依テ生シタル電信文其  
 モノハ賴信紙偽造ノ結果タリ)  
 (二)如何ナル行爲ヲ以テ偽造又ハ變造ノ電信文ノ行使トス可キヤ? 電信文  
 其モノニ依ル場合ハ電信局ニ於テ電信用紙ニ記載セラレタル文書カ配達  
 セラレントスルトキヲ以テ行使ノ着手トシ受信人ニ配達セラレタルトキ  
 ヲ以テ行使ノ既遂トス賴信紙ニ依ル場合ハ之ヲ發信局ノ技手ニ交付シタ  
 ルトキヲ以テ行使ノ着手トシ依テ電報カ受信人ニ到着シタルトキヲ以テ  
 行使ノ既遂トス(他ハ之ニ準ス)  
 (三)官文書ノ區別ハ何ニ依テ之ヲ爲スヤ? 電信文ノ官私ハ依頼者ノ資格  
 如何ニ依リテ分ツ可シ官吏カ公權ヲ代表シテ發シタルモノナルトキハ官  
 文書然ラサルトキハ私文書タリ但電信技手カ職權ヲ以テ認ム可キ部分即  
 チ電報發着ノ日時字數記載等ハ常ニ官文書タリ  
 次ニ法律ハ文書ノ作製又ハ増減變換ヲ要ス作製即チ偽造トハ新ニ文書ヲ作り  
 出スコト増減變換トハ所謂變造又ハ變更ヲ意味ス詳ニ之ヲ言ヘハ増加トハ既

存文書ニ或文字又ハ條款ヲ附加スルコト、減少トハ既在文書ノ中ニ或文字又ハ條款ヲ删除スルコト、變換トハ増加ト減少トヲ併セ行フコト例ヘハ二百條トアル二ノ字ヲ删除シテ五ノ字ヲ加ヘ以テ五百條ト爲スカ如キコトヲ意味ス而シテ文書ノ作製又ハ増減變換ハ之ヲ作製スルノ職權又ハ權利ヲ有スル者ノ手ニ成ルコトアリ然ラサルコトアリ是ニ於テカカ文書ノ作製又ハ増減變換ハ之ヲ爲シタル者ノ資格如何ニ依リ之ヲ二種ニ分類スルコトヲ得

- (甲) 作製ノ職權又ハ權利ナキ者ノ手ニ成リタル場合 學者之ヲ稱シテ有形ノ變造ト云フ蓋シ職權又ハ權利ナキ者カ作製ノ職權又ハ權利アル者即チ記錄者ノ名義若クハ資格ヲ冒シテ作製スルモノナルカ故ニ所謂眞實ノ詐僞ハ文書其モノ即チ形式ノ虛僞ニ依テ行ハルレハナリ而シテ此場合ハ記錄者ノ名義又ハ資格ヲ冒スコト、文書ノ作製トノ二ヲ以テ成立ス
- (乙) 作製ノ職權又ハ權利アル者ノ手ニ成リタル場合 學者之ヲ稱シテ無形ノ偽造ト云フ蓋シ職權又ハ權利アル者ノ手ニ成ルモノナルカ故ニ文書其モノ即チ形式ノ上ニ於テハ一點虛構ナシ所謂眞實ノ詐僞ハ之ニ依テ表示

セラレタル事實ノ上ニノミ無形的ニ存スルノミナレズナリ之ヲ稱シテ偽造ト云フハ佛國ノ主義ヲ採用シタル刑法ニ於テノミ獨リ首肯シ得可キノミ獨國ノ主義ヲ採用シタル刑法ニ於テハ決シテ了解シ得サル所タリ隨テ我刑法ヲ以テ獨國ノ主義ヲ採用シタルモノト稱スルトキハ到底是認スルコトヲ得サル點トス

凡ソ法律カ文書罪ヲ罰スル所以ハ詐僞ノ證據ヲ作製シテ其提示ヲ受ケタル者ノ信用ヲ誤ラシメ以テ眞實ヲ害スルカ故ナリ然ラハ此種ノ行爲カ文書偽造罪トシテ罰セラル、ニハ其之ニ依リテ他人ヲ欺カントスル文書カ其自身他人ノ信用ヲ誤ラシムルニ堪能ナルモノナラサル可カラス而シテ本場合ノ所謂文書ナルモノハ他人ノ隨意ニ作製又ハ増減シ得可キモノナルカ故ニ自己詐欺者ノ利益ノ爲メニハ勿論他人ノ利益ノ爲メニモ通常證據トシテ採用セラル可キモノニ非ス然ラハ本場合ノ文書ニ於ケル事實ノ虛僞ヲ無形ノ文書偽造罪トシテ罰スルコトヲ得ルニハ有形ノ文書偽造ノ場合ト同シク他人ノ確信ヲ惹起シ隨テ害ヲ生シ得可キ特段ナル文書ナラ

ナル可カラス而シテ如何ナル文書ヲ右ノ如キ特段ナル性質ノ文書トス可  
 キヤ？原則トシテハ余ハ確信ス官公文書ノ如ク其自身信實ノ標準ト爲ル  
 文書隨テ一般公衆ノ確信ヲ置カサル可カラサル文書及ヒ官署ニ提出ス可  
 キ諸般ノ届書戸籍又ハ所得額ニ關スル届書ノ如キ若クハ商法上ノ或文書  
 (商業帳簿ノ如キ)ノ如ク公益上法律カ特ニ正實ナル可キコトヲ要求シテ  
 豫メ反對ノ審査ヲ省略シタル私文書ハ何レモ反對ノ證據ノ提出セラルハ  
 マテ一應ノ證據トシテ確信セラル可キモノナルカ故ニ舉テ右ニ所謂特段  
 ナル文書トシテ隨テ其實質ノ虛偽ハ文書偽造罪ヲ成スト謂ハサル可カラス  
 ト然レトモ此點ニ關シ(一)官公文書ヲ除クノ外法律ハ或者ニ對シテハ特ニ  
 多少ノ制裁ヲ設ケテ刑法ノ適用ヲ避クルニモ拘ハラズ類似殊ニ其レヨリ  
 モ尙ホ輕キ特別ノ制裁ヲ以テ満足ス可キ他ノ者ニ對シテハ漫然之ヲ刑法  
 ノ制裁ニ委シアリテ立法ノ趣旨一致セサルト(二)其果シテ反對ノ審査ヲ省  
 略シタルモノナルヤ否ヤハ偏ニ法律ノ規定ニ依リ定ムル可キモノナルニ  
 其規定模糊トシテ判別スルコト能ハサルモノアリテ現ニ刑法ノ規定ヲ豫

想シテ官公文書又ハ商業帳簿等ノ證據力ヲ定メタル舊民法證據法ノ母法  
 タル佛國ニ於テモ學說紛々其經界分明ナラザルト(三)現行新民法ニ於テハ  
 舊民法ノ如ク證據法ヲ以テ諸般ノ證據ノ効力ヲ規定スルノ迂ヲ避ケ獨  
 民法ニ於ケルカ如ク諸般ノ證據ハ一ニ裁判官ノ判斷ニ委スルコトハ爲シ  
 タルノ結果民法ノ趣旨相衝突スルトニ因リ刑法ノ規定ハ右ノ如クニシ  
 テ荷モ官公文書ノ如ク其レ自身真實ノ標準ト爲ル可キ文書若クハ公益上  
 法律カ特ニ正實ナル可キコトヲ要求シタル文書ニ於テ事實ヲ虛構シタル  
 者ハ皆無形ノ文書偽造者タル可シト雖モ疑ハシキハ輕キニ從フノ原則ニ  
 從ヒ下ノ如ク決定セント欲ス曰ク無形文書偽造ハ規定ハ廣濶ナリト雖モ  
 他ノ法律トノ對照上所謂文書偽造ヲ以テ罰シ得可キモノハ刑法中特ニ其  
 規定ヲ設タルモノ即チ第二百五條第二百九條第二項及ヒ第二百十五條第  
 二項第二百十六條末段ノミナリト

(註) 設令或學者ノ如ク廣ク無形偽造ノ適用ヲ認ムトスルモ一私人カ虛偽  
 ノ陳述ヲ爲シ因テ官吏公吏ヲシテ不實ノ文書ヲ作製セシムルノ行爲ヲ

以テ無形偽造ノ一種ト論スルハ謬見ナリ蓋シ論者ハ此場合ニ於テ官公吏ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル一私人ノ器械ナリ代人ナリト主張スレトモ官公吏ハ一私人カ其面前ニ於テ陳述ヲ爲シタルトキハ之ヲ錄取ス可トノ法律命令ノ下ニ於テ其職權ヲ執行スルモノナリ統治ノ機關ナリ被治者タル私人豈之ヲ願使スルノ理アラシヤ論者ノ説ノ如キハ公法ノ觀念ヲ缺如スルモノナリ之ヲ要スルニ本問ノ場合ニ於テハ其一私人ノ陳述ハ法律上眞實ナラサル可カラサルコトヲ要スルモノニシテ其虚偽ハ官公文書ノ錯誤即チ虚偽ヲ結果ス可キモノナルカ故ニ明文ヲ設ケ官公文書ノ偽造ニ準シテ同一ノ制裁ヲ加フルハ敢テ不當ノ立法ト云フコトヲ得ス否ナ寧ロ其必要アル可シト雖モ此明文ナキ我刑法ニ於テ直チニ之ヲ官公文書ノ偽造ナリト主張スルハ官公文書ノ虚偽ヲ生スルカ故ニ官公文書ヲ偽造シタルト同一ノ害惡ヲ發生セシムルモノナリト云フ被害ノ點ノミヨリ推論シ遂ニ行爲ノ性質其モノヲ曲解シタルモノナリ故ニ其性質ニ伴ヒタル普通ノ制裁トシテハ或ハ廣ク其虚偽ヲ罰スルカガ戸

籍法第二百十五條參看或ハ其文書ニ依テ行ハレタル場合ニ於テ無形ノ私文書偽造罪ヲ以テ論ス可キモノナリ(廣ク無形ノ文書偽造罪ノ主義ヲ探レ)

第二ノ要素 事實ノ眞實ヲ僞ルコト(本要素ハ次ノ要素ト共ニ第四ノ要素即チ害ヲ生シ得可キコトノ中ニ包含セラレ可キモノニシテ畢竟其一條件ニ過キス隨テ文書偽造罪ハ或ハ(一)文書ヲ複製又ハ増減變換シテ之ニ憑ルコト(一)害ヲ生シ得可キコト(二)事實ノ眞實ヲ僞ルコト(三)文書カ證明セントスル事實ヲ僞ルコト以上所爲(三)害ヲ生セシムルノ意思アルコト以上意思即チ佛國法ノ主義ニ於テ最モ主要トスル所)三要素ヲ以テ成立スト説明シ本要素ハ第三要素中ニ於テ之ヲ論スルカ或ハ(一)文書ヲ複製又ハ増減變換シテ之ニ憑ルコト(一)事實ノ眞實ヲ僞ルコト(二)文書カ證明セントスル事實ニ關スルコト(四)害ヲ生セシムルノ意思アルコトノ四要素ヲ以テ成立スト説明シ抽象的ナル害ヲ生シ得可キコトヲ要素ハ右(三)(四)ノ二要素ヲ以テ具象的ニ代表セシムルヲ以テ論理的ノ分配トスルモ本要素次ノ要素及ハ害ヲ生シ得可キコトノ各



點ハ何レモ特ニ注意ヲ要ス可キモノナルカ故ニ暫ク論理的ノ分配ヲ離レ相對向セシメテ説明スルノミ請フ幸ニ誤ル勿レ）（一）法律カ文書ノ偽造ヲ罪トシ罰スル所以ハ虛偽ノ事實ヲ證明ス可キ證據ヲ發生セシム以テ害ヲ生セシムルカ故ナリ然ラハ文書其モノ即チ證據ト爲ルモノ、形式ハ之ヲ偽ルモ若シ其文書即チ證據ニシテ眞實ニ表示シ隨テ眞實ヲ證スルモノナランカ毫モ之ニ因テ害ヲ受ク可キ者アルコトナシ（獨國刑法ノ主義ヲ採用スル刑法ニ於テハ危險ノ生ス可キ文書ノ形式ヲ偽ルコトソレ自身ヲ以テ害ヲ生シタルモノナリトスルモ是レ前述ノ如ク我刑法ノ採用セサル所タリ害ヲ生スルノ危險ナクシハ法律ハ之ヲ處罰スルノ實益ヲ有セス是レ本要素ノ必要ナル所以タリ）（二）事實ノ眞實ヲ偽リタルコトヲ要スルカ故ニ事實貸借又ハ委任ノ契約アル場合ニ於テ債務者カ又ハ受任者カ擅ニ債務者又ハ委任者ノ名義ヲ以テ貸借又ハ委任關係ヲ證明ス可キ證書ヲ作成シ會計官吏カ百圓ノ支出ナルニ五十圓ト誤記シタル場合ニ於テ百圓ト訂正シタルカ如キ所爲ニ於テモ意思ニ於テモ事實ノ眞實ヲ偽ラサルモノハ勿論假令眞實ヲ偽ルノ意思ヲ以テ眞

實ニ非スト信ツテ作製シタルモノ例ヘハ眞實被告ニ金百圓ヲ與フ可シトノ遺言書アルヲ知ラスシテ同一ノ遺言書ヲ偽造シタルカ如キ眞實ニ偶中シタル場合ト雖モ犯罪ヲ構成セザルモノトス

第三ノ要素 文書カ證明セントスル事實ニ關スルコトヲ要ス（一）是レ前要素ト同シク文書ノ偽造カ罪トシ罰セラル、ニハ害ヲ生シ得可キコトヲ要スルヨリ當然生ス可キモノタリ、蓋シ既ニ説明セシ如ク法律上所謂文書ハ證據即チ事實ヲ證明スルノ用ニ供スルモノニシテ其偽造又ハ變造ハ證據ヲ偽ルニ存ス舊テ假令文書ニ因テ事實ノ眞實ヲ偽ルモ其依テ偽ラレタル事項カ文書ノ證明セントスル事實ニ關セサルカ又ハ其文書ノ實質若クハ形式カ證明ノ用ニ供セラレ可キモノニ非サルトキハ毫モ實害ヲ生スルノ危險ナクレハナリ

（二）所爲者カ文書ニ因テ眞實ヲ偽ラントシタル事項ハ文書カ證明セントスル事實ニ關スルコトヲ要スルカ故ニ例ヘハ金百圓右正ニ借用ストアルヲ右正ニ借用申處實正也トシタルカ如キ詩歌俳諧等ヲ記載シタル文書即チ其實質カ事實ヲ證明スルニ非サルモノヲ偽造變造シタルカ如キ死者カ死亡以後ノ

日附ヲ以テ又ハ作製ノ職權ナキ官吏ノ名ヲ以テ若クハ虛無ノ人ノ名ヲ以テ  
 文書ヲ偽造變造シタルカ如キハ何レモ罪ヲ構成セサルモノトス。此ノ最  
 後ニ示シタル設例ニ付キ人或ハ異論ヲ主張スル者アリト雖モ畢竟意見タリ  
 何ヲ以テ之ヲ云フ曰ク文書カ表示シタル事實ノ信憑セラル、所以ハ署名者  
 即チ責任者アルニ因ル責任者ノ誰タルヲ知ラスンハ其文書ヲ信憑スルノ理  
 ナシ然ラハ責任者ノ誰タルヲ知ラスシテ之ヲ信スレハ是レ責任者アルカ如  
 クニ假裝セラレタル文書ノ外形ヲ妄信シタルモノニシテ酒場ニ貼付ス可キ  
 「ペーハー」ヲ紙幣ナリト妄信シタル田舎漢ト擇フ所ナケレハナリ貨幣偽造罪  
 ニ關スル説明參看)

第四ノ要素 害ヲ生シ得可キコト 諸般ノ犯罪皆害アルコトヲ想像ス而シテ所  
 謂實害ハ犯罪ノ體素即チ所爲其モノ、中ニ包含スルモノニシテ前述ノ如ク  
 余ハ既ニ第二第三ノ要素ヲ以テ害ヲ生シ得可キ所爲ノ何者タルコトヲ説明  
 シタルカ故ニ本要素ハ正確ナル論理想ヲ以テ云フトキハ畢竟蛇足ニ過キ  
 ス而モ余ノ尙ホ之ヲ掲タル所以是レ文書偽造罪ハ他ノ犯罪ト異ナリ單ニ文

書ヲ偽造變造スルノ意思ト之ヲ行使スルノ意思即チ他人ヲ欺罔シテ其確信  
 フ害セント欲スルノ意思ノミヲ以テ十分ナリトセス進テ確信ヲ害シ因テ他  
 人ニ一定ノ實害權利義務ノ得喪ニ關スル害惡ヲ與ヘ若クハ自己又ハ第三者  
 ニ不正ノ利益ヲ得若クハ得セシメントノ意思アルコトヲ要スルモノニシテ  
 (心素之ニ伴フ可キ所爲モ亦單ニ他人ヲ欺クニ止マラス因テ他人ニ害ヲ與ヘ  
 自己若クハ第三者ニ不正ノ利益ヲ得若クハ得セシメントスルノ所爲體素ア  
 ルコトヲ要スルモノタルヲ明ニセンカ爲メノミ蓋シ犯罪ノ行爲ハ或ハ其體  
 素自身カ自ラ惡意アルコトヲ表彰スルモノト然ラサルモノトアリテ放火又  
 ハ殺人罪ノ如キハ所爲自體カ業ニ已ニ害意アルコトヲ表彰セリト雖モ文書  
 偽造罪ノ如キハ其所爲單ニ人ヲ欺クト云フニ在リテ虛偽ハンレ自身常ニ害  
 意アルニトヲ表彰セサルカ故ニ所爲ノ方面ヨリ惡意ニ出テタルモノタルコ  
 トヲ明ニセント欲セハ勢ヒ外形ニ表ハル可キ所爲ノ外更ニ其所爲ハ害意ヲ  
 以テスルモノ隨テ害ヲ生シ得可キモノタルコトヲ明ニセサルヲ得サレハナ  
 リ

前述ノ如ク本要素ノ全般ハ已ニ之ヲ第二第三要素ニ於テ説明シタルノミナ  
ラス其所謂害ノ何者タルヤハ後段意思ノ條ニ於テ之ヲ説明スルヲ便宜トス  
ルカ故ニ本要素ニ付テハ茲ニ贅述セス

第五ノ要素 害ヲ生セシムルノ意思アルコト 凡ソ法律カ或行爲ヲ輕罪以上  
ノ犯罪トシテ罰スルハ概テ之ヲ犯ス者ニ於テ惡意即チ故ラニ國法ノ禁止ス  
ル所ノモノヲ犯シ以テ害ヲ生セシメント欲スルノ意思アルカ故ナリ然リ而  
シテ凡ソ犯罪行爲ハソレ自身概テ一般ノ習慣ニ反スルノ外形隨テ國法ノ必  
ズ禁止セサル可カラサル形式ヲ有ス故ニ殺人行爲ノ如キ放火行爲ノ如キ多  
クノ犯罪ハ犯人ニ於テ之ヲ知ルニモ拘ハラズ敢テスルノ意思即チ行爲ニ伴  
フ知覺タニ有ルコトノ證明セラル、ニ於テハ當然惡意害ヲ生セシメントノ意  
思ノ以テ重刑ヲ科セサル可カラサル心意情況アリト云フヲ得ヘク更ニ反對  
ノ辯解ヲ許サスト雖モ少數ノ犯罪例ヘハ毆打創傷罪及ヒ本罪ノ如キハ其行爲  
自身必スシモ一般ノ習慣ニ反スルノ外形ヲ有セス(毆打創傷罪ニ付テ之ヲ云  
ハ、身體ヲ毀傷スルハ反テ之ヲ保全スル所以タル場合アリ醫療ノ爲メ他人

ノ身體ニ突ヲ施スカ如キ一肢ヲ斷タサレハ生命ヲ失フ可キ場合ニ其一肢ヲ  
斷ツカ如キ其一例ナリ然ラハ毆打創傷ノ行爲ハ其外形ニ於テ必スシモ一般  
ノ習慣ニ反セス本罪ニ付テ之ヲ云ハ、虛言モ亦一ノ方便ニシテ却テ道義ヲ  
全ウスル事アリ佛者カ未來ニ地獄アリト説キテ人ノ邪念ヲ脱却セシムルカ  
如キ其一例タリ本罪ハ文書ヲ以テスルモノナレトモ文書ヲ以テスルト口頭  
ヲ以テスルト其虛偽タルハ一ナリ然ラハ本罪ノ行爲モ亦其外形ニ於テハ必  
スシモ一般ノ習慣ニ反セス(隨テ法律ニ示シタル外形ノ行爲及ヒ之ニ伴フ所ノ  
知覺アリトテ常ニ必スシモ直チニ惡意即チ國法ノ以テ重刑ヲ科セサル可カ  
ラサル心意情況アリト云フヲ得ス是レ法律カ(假令之ヲ明言セスト雖モ)本罪  
ヲ構成スルニハ特ニ害ヲ生セシムルノ意思アルコトヲ要ストスル所以ナリ  
蓋シ此ノ如クナラスンハ玉石同架概テ忍フ可カラサルノ結果ヲ生スレハナ  
リ

害、隨テ害ヲ生セシムルノ意思トハ何ソヤ?——説明ニ先立チ一言注意セ  
ント欲ス余ハ前ニ他人ヲ害シ又ハ不正ニ自己若クハ第三者ヲ利スルノ意思

ト云ヘリ此間別ニ區別アルニ非ス否ナ論理的ニ云ハ、後段又ハ不正ニ云々ハ前段ノ中ニ包含セラル、モノニシテ畢竟蛇足タリ而シテ之ヲ附加スルハ讀者ノ了解ヲ助ケンカ爲メノミ蓋シ不正ノ利ハ一方ニ必ス害惡ヲ想像スルモノニシテ自己又ハ第三者ヲ不正ニ利スルノ意思ハ當然他人ヲ害スルノ意思ナレハナリ隨テ或學者カ佛國牙勞氏ノ所說ニ倣ヒ他人ヲ害スルノ意思ト云フノミヲ以テハ未タ盡サ、ル所アリトシ又ハ不正ニ云々ノ文字ヲ附加セテル可カラスト主張セルハ所說艱ニ倣フノ類探ル可カラス若シ夫レ高尚ナル道義觀念ニ基キ苟モ文書カ證明セントスル事實ノ眞實ヲ僞ルトキハ則チ人ノ確信ヲ誤ラシムルカ故ニ假令何人ニモ損害ヲ與フルノ意思ナク若クハ單ニ一時ノ戲謔ニ出ツル場合ト雖モ已ニ犯人ニ於テ文書カ證明セントスル事實ノ眞實ヲ僞ルモノタルコトヲ知リナカラ其文書ヲ行使シテ他人ヲ欺クノ意思アルトキハ茲ニ害ヲ生セシムルノ意思アリト云フコトヲ得ヘシ法律ハ果シテ之ヲ以テ足レリトスルカ余ヲ以テ之ヲ見ルニ若シ之ヲ以テ足レリトセハ文書ヲ僞造變造シテ事實ノ信實ヲ僞ル云々ト云フノミヲ以テ十分ナリ

何ゾ紳案ニ於テ訓令ニ於テ(訓令ハ前述ノ如ク當時ノ有權解釋タルカ故ニ引用ノ價直アリ)或ハ Usage Fraudulent (惡意ノ行使アルヲ要スト云ヒ或ハ已ニ眞實ヲ變換スルコトヲ要スト云ヒ)ナカラ更ニ他人ニ害ヲ加フルノ意思アルコトヲ要スト云フノ理アラシヤ是ニ依リテ之ヲ觀レハ所謂害ハ單ニ眞實ヲ僞リテ因テ確信ヲ害スルノミノ害惡ヲ云フニ非スシテ之ニ因テ他人ニ法律上或一定ノ損害ヲ被ラシムルコトヲ換言スレハ確信ヲ誤ラシメタル原因トシテ他人ノ權利ヲ損傷シタルコトヲ云フ廣ク權利ノ損傷ナルカ故ニ財産上ニ關スルト否トニ論ナシ隨テ害ヲ生セシムルノ意思トハ他人ノ確信ヲ誤ラシメ因テ之ヲシテ一定ノ損害ヲ受ケシムルノ意思ヲ云フモノトス法律ハ此意思アルコトヲ要スルカ故ニ先キニ例擧シタル場合即チ一時ノ戲謔ニ基キ文書ヲ僞造行使シテ他人ヲ欺キタル者不在者ノ事務管理ノ爲メ其委任狀ヲ僞造行使シテ不在者ノ得ヘキ金額ヲ受取リ之ヲ不在者ニ交付シタル者他人ノ名義ヲ以テ(承諾ヲ得スシテ)預ケタル金額ヲ受取ラント欲シ其委任狀ヲ僞造シタル者等單ニ他人ノミヲ害スルノ意思例ヘハ他人ヲシテ無用ノ失費ヲ

爲シメントスルカ如キ意思モナク亦自己又ハ第三者ヲ不正ニ利スルノ意思隨テ他人ヲ害スルノ意思モナキモノハ本罪ノ罪人タラサルモノトス此點ニ付キ或學者カ佛國勞牙氏ノ說明ニ隨ヒ害ヲ生セシムルノ意思アルコトヲ要スト云ヒナカラ事實ノ眞實ヲ僞ルコトタルヲ知ルト同時ニ他人ヲ欺ムタノ意思アルトキハ即チ害ヲ生セシムルノ意思アルモノナリト說明シタルカ如キハ勞氏カ其說明ノ起頭ニ本罪ニ於テ害ヲ生シ得可キコトナクシテハ罪ヲ構成セサルハ猶ホ毒殺罪ニ於テ人ヲ殺スニ堪能ナル分量ノ毒物ヲ使用スルコトナクシテハ罪ヲ構成セサルト同シク一般總則ノ適用ヲ脱セサルモノナリト云ヒタルハ實害云々ハ此犯罪ノ性質トシテ當然附着スルモノニシテ特ニ附隨トシテ之ヲ要スルニ非サルコトヲ說明シタルモノナルヲ誤解シタルノ罪ニ坐ス勞氏刑法論第三卷第一〇九號及ヒ岡田氏刑法論各論ノ部第三三三號第三三八號參看勞氏カ其說明ノ中段ニ他人ヲシテ相續權アルカノ如クニ確信セシメンカ爲メ戲レニ遺言書ヲ偽造シタル者ハ眞實ニ非サルヲ知リ且他人ヲ欺クノ意思アルニモ拘ラス無罪ナリト云フヲ見ルモ思ヒ半ハニ

セシムル必要ヲ生スルコトアリ或ハ又新ニ選舉ヲ行ヒタルトキハ總テ一度ハ必ス召集セサルヘカラスト云フ者アリ固ヨリ衆議院解散セラレテ新ニ總選舉ヲ爲シタルトキハ未タ一回モ召集セサル前ニ解散ヲ行フコトヲ得ス何トナレハ解散セラレタルトキハ新ニ議員ヲ選舉シテ五箇月以内ニ召集スヘシト云フ規定アルカ故ニ若シ召集セサル前ニ解散スレハ此規定ニ反スルニ至レハナリ之ニ反シテ通常ノ選舉ヲ行ヒタル後ハ一度モ召集セシメテ之ヲ解散スルコトヲ得ト謂ハサルヘカラスト然レトモ之カ爲メニ通常會ヲ一度モ召集セサル結果ニ至ラシムルコトヲ得ス

第二十七節 帝國議會ノ議事ニ關スル重ナル原則

第二十八節 議會ト政府員トノ關係及ヒ各院相互

間ノ關係

右二節ノ說明ハ之ヲ略ス

第二十九節 帝國議會ノ組織

大凡議院ニ一院制ト兩院制トアリ兩院制ハ凡ニ英國ニ於テ發達シ歐洲諸國ハ

之ヲ模範トシテ採用シタルモノナリ現今歐洲ニ於テハ一ニ小國ヲ除クノ外ハ皆兩院制度ヲ採ル我帝國議會モ亦兩院制度ヲ採リテ貴族院及ヒ衆議院ノ兩院ヨリ成ル此兩院ハ互ニ獨立シテ議事ヲ開キ議決ヲ爲シ又議事規則ヲ定メ其他建議上奏等各獨立シテ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ兩院ハ同時ニ召集開會停會及ヒ閉會セラル、モノナリ又衆議院解散ノ場合ニハ貴族院ハ停會セラル、カ故ニ此兩院ハ其會期ヲ異ニシテ作用スルコトヲ得ス兩院制度ノ原則トシテ議會ノ權限ノ重ナル協賛及ヒ承諾ニハ必ス兩院ノ同意ヲ必要トス若シ一院ノ否決アレハ議會ノ議決タル効力ナシ又兩院共ニ同一ノ議案提出權ヲ有ス政府カ議案ヲ提出スルニモ兩院院ノ中孰レヲ先キニスルモ全ク其自由ナリ唯豫算案ハ先ツ衆議院ニ之ヲ提出セサルヘカラス貴族院ハ衆議院ノ議決ノ後ニアラナレハ之ヲ議スルコトヲ得ス外國ノ憲法ニ依レハ貴族院ハ衆議院ノ送付シタル豫算案ヲ可決スルカ又ハ否決スルカ孰レカ其一方ヲ選マサルヘカラス之ヲ修正スルコトヲ得ストスル國多シト雖モ我法律ニ於テハ斯ル規定ナキカ故ニ衆議院ノ送付シタル豫算案ヲ修正スルコトヲ得唯衆議院ノ先議決ノ効力ニ

付テ少シク疑アリ明治二十五年衆議會ニ於テ衆議院カ刪除シタルモノヲ貴族院ニ於テ復活シタルコトアリ之ニ因テ爭ト爲リ終ニ勅裁ヲ仰キテ復活ヲ許スコト、爲レリ此ノ如キ實例ハ外國ニ於テモ亦之アリ千八百二十二年十月ノ普魯西ノ貴族院ニ於テ衆議院送付ノ豫算案ヲ否決シテ更ニ政府提出案ヲ可決シタルコトアリ之ニ因テ大ニ爭ト爲レリ當時學者ノ解釋ニ曰ク貴族院ノ行爲ハ全ク違法ナリ豫算議決ニ付テハ貴族院ハ修正權ヲ有セス唯衆議院ノ修正權ヲ有スルモノナリ政府ノ提出案ハ衆議院カ議決ニ由テ全ク異ナリタル豫算案ト爲レルモノナリ貴族院ニ於テハ此衆議院送付ノ豫算案ヲ議題ト爲サ、ルヘカラス原トノ政府案ヲ議題ト爲スコトヲ得ス貴族院ハ通常ノ法律案ニ付テハ修正權ニ依リテ原トノ議案ノ條項ヲ復活スルコトヲ得ルモ豫算案ニ付テハ政府案ヲ復活スルコトヲ得ス何トナレハ貴族院ハ豫算ニ付テハ修正スルコトヲ得サレハナリ貴族院ハ同一ノ年度ニ於テハ二ツノ豫算案ヲ有スルモノニアラス唯衆議院送付ノ一個ノ豫算案ニ付テ可否ノ議決ヲ爲スコトヲ得ルノミナリ政府案ヲ復活スル如キハ違法ノ行爲ナリト云フニ在リキ我憲法議院法ノ規定ニ

依レハ此等ノ憲法ト異ニシテ貴族院ハ豫算ニ付テモ仍ホ修正權ヲ有ス故ニ修正權ナキカ故ニ政府案ヲ復活スルコトヲ得ストノ議論ハ成立セス然レトモ豫算ニ付テノ修正權ハ如何ナル範圍ヨリ成立スルモノナリヤ第一回ノ議會ニ於テハ豫算ノ款項ヲ新ニ設ケタル異例アルモ其後ニ於テハ款項ヲ新設セサルコト殆ト慣例ト爲レルカ如シ是レ蓋シ豫算ニ付テハ議案提出權ヲ有セサルカ故ナリトノ理由ニ基ケルモノナリ若シ豫算ニ付テハ款項ヲ新ニ設ケルコトヲ得ストノ説ヲ採レハ貴族院モ亦衆議院送付ノ議案ニ付テ款項ヲ新ニ設ケルコトヲ得ス例ヘハ衆議院ニ於テ政府案ニ掲ケル或款項ヲ刪除シテ貴族院ニ送付シタルトキハ貴族院ニ於テハ之ヲ政府案ニ復活セシムルコトヲ得ス何トナレハ貴族院ニ於テハ衆議院ノ送付シタル議案ニ付テ議決セサルヲ得サレハナリ

**第三十節 議員ノ特權**

第一 意見ニ付テノ無責任 憲法第五十二條ニ兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナラズトアリ本條ニ於テ疑ノ起ルコトハ意見ナル文字ノ範圍是ナリ

或一説ニ依レハ議員ノ議院内ニ於ケル發表ハ唯議院内ニ於テ其責任ヲ問ハルルノミニシテ其他ニ刑法上ハ訴追ヲ受クルモノニアラス蓋シ本條ハ各議員カ獨立シテ自由ニ言論ヲ爲スコトヲ得ルカ爲メニ設ケタル唯一ノ保障ノ規定ナリ故ニ意見トハ議員カ其職務ヲ行フニ際シテ發表シタルコトハ總テ之ヲ含ムモノナリト云ヘリ

他ノ一説ニハ本條ハ議員カ議院内ニ於テ刑法上ノ誹毀ニ涉ル言語ヲ發シタルトキニ刑事上ノ訴追ヲ禁スルモノニテラス唯誹毀ノ性質ヲ有セザルモノニ限リ謂フ受クルモノニアラストノ規定ナリ蓋シ此規定ハ刑法ノ例外法ニ屬スルモノナレハ之ヲ嚴正ニ解セサルヘカラス意見トハ唯思考力ノ結果ヲ指シテ云ヘルモノナリ故ニ事實ノ主張又ハ事實ノ報告トハ之ヲ區別セザルヘカラス固ヨリ意見モ事實モ前提ニ基クモノナレドモ然レトモ意見ト事實トハ性質上異ナル所アリ憲法ニ所謂意見トハ唯事實ノ主張又ハ報告ヲ含ムモノニアラス意見ハ判斷ニシテ事實ニアラス殊ニ特定ノ事實ヲ含マナル一般ノ判斷ナリ此一般ノ判斷ハ或ハ刑法上ノ罵詈嚼弄ト爲ルモノニシテ其ハ憲法ノ規定ニ依リテ所



開原因ト爲ルコトナシ之ニ反シテ特定ノ事實ヲ發表スレハ是レ即チ誹毀罪ニシテ無責任ノ限リニアラスト云ヘリ

然レトモ判斷ト事實トハ之ヲ絕對ニ區別スルコトヲ得ス判斷ハ事實ト關係ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得ス或判斷ヲ爲スニハ事實ヲ以テ之ヲ確メサルヘカラス何事モ見聞シタルコトニ付テ判斷ヲ下スモノナリ單純ナル事實ヲ陳述スルニモ尙ホ判斷ハ伴フコトアリ例ヘハ甲者カ乙者ノ或一定ノ場所ニ在留シタルコトヲ主張スル場合ニハ甲ハ其乙ノ形ヲ見又ハ乙ノ音聲ヲ聞キテ其見聞ノ感覺ト其乙ナルコトノ前想ト一致スル結果ヲ主張スルモノニシテ其感覺ニ依リテ乙ナルコトヲ確定スルハ即チ判斷ノ作用ナリ且總テ判斷ハ苟モ未來ノコトニ關係セサル限リハ之ヲ事實ノ報告ト看ルコトヲ得ルコトアリ甲者カ乙者ノ不品行ナルコトヲ爲シタルコトノ意見ヲ陳述スル場合ニ其甲ノ所謂不品行トハ如何ナル意味ニ於テ謂フモノナルカ之ヲ知ラサルトキハ一定ノ事實ヲ含マサル一般ノ判斷ナリ即チ意見ナリト云フコトヲ得然レトモ若シ甲ノ言ニ疑ナキコトヲ信認スレハ此ノ如キ一般ノ判斷モ直チニ之ヲ事實ノ報告ト爲スコト

ヲ得

故ニ判斷ハ事實ト全ク區別スルコト能ハス判斷ハ一個人ノ感覺ノ反射又ハ事實ノ反射ト謂フコトヲ得隨テ判斷即チ意見ヲ陳述スルニハ必要ノニ事實ノ陳述ト爲ルナリ今若シ事實ノ陳述ニ刑法上責任アリトスレハ意見ノ陳述ニモ亦責任アリト謂ハサルヘカラス且普通ノ用語ニ於テモ事實ノ陳述モ見込テ陳述スルモ總テ之ヲ意見ト曰フ是ヲ以テ憲法ノ所謂意見トハ之ヲ意思發表ノ意義ト解セサルヘカラス

又茲ニ「發言シタル意見トアリ發言トハ普通口頭ヲ以テ發表シタルモノヲ謂フヲ以テ若シ文字ニ拘泥シテ解セハ書類ヲ以テ發表シタル意見ノ如キハ之ヲ含ムモノニアラスト解セサルヘカラス然レトモ本條ノ精神ヨリ考フレハ發言トハ發表ノ義ト解セサルヘカラス蓋シ本條ヲ設ケタル所以ハ院外ノ問責ニ顧慮セシテ充分ニ動作ヲ爲サシムル爲メニ出テタルモノナレハ口頭ヲ以テスルハ自由ナレトモ書類ヲ以テスルハ制限アリト謂フカ如キハ權衡ヲ得サル解釋ト謂ハサルヘカラス故ニ議員ハ書類ヲ以テ諸般ノ報告ヲ爲シ又ハ議案ヲ提出

スルモ之カ爲メニ院外ニ於テ責任ヲ負フモノニアラス本條ノ責ヲ負ハストハ  
刑法上并ニ懲戒法上ニ於テ責任ヲ負ハサルコトヲ謂フ故ニ官吏カ議員ヲ兼テ  
タルトキハ其言動ニ付キ獨リ刑法上ノ責任ヲ負ハサルノミナラス又懲戒上ノ  
處分モ之ヲ受クルモノニアラス又議院ニ於テ或人ニ對シテ無根ノ事實ヲ述ヘ  
名譽ヲ害シ且財産上ノ損害ヲ及ホシタルトキハ民事上ノ損害賠償ノ訴ヲ起ス  
コトヲ得ルカ之ニ付テハ起スコトヲ得ト云ヘル學者アリ然レトモ議員ノ言論  
ノ自由ヲ與フル法律ノ精神ヨリ云ヘハ民事上ノ損害ニ付テモ責任ヲ負ハサル  
モノト解スルヲ至當ナリト信ス

之ニ反シテ議院内ニ於テ發表シタルコトニ關シ議員カ證人トシテ召喚セラレ  
タルトキハ其無責任ヲ口實トシテ證言ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルト  
キハ一般ノ法律ニ從ヒテ制裁ヲ受クルモノナリ此場合ニ於テハ制裁ハ議院内  
ニ於テ發表シタル意見キ之ヲ加ヘルモノニアラスシテ議院外ニ於テ生シタル  
事即チ裁判所ニ於テ證言ヲ拒ミタルニ因リテ加フルモノナリ或ハ證言ヲ求ム  
ル爲メニ召喚スル如キハ議院内ノ發表ニ付テ責任ヲ負ハスト云フ規定ニ反ス

○編輯上ノ用向ハ必ス編輯部宛ニテ通  
信スヘシ

○質疑ハ半紙又ハ罫紙ニ問題ト其疑點  
トヲ簡明ニ認ムヘシ

用紙ハ一問題毎ニ別紙ヲ用フヘシ  
半切葉書又ハ他ノ用事ト共ニ認メタ  
ル質疑ハ回答セス

○亂筆讀ミ難キモノ趣意不明ナルモノ  
亦同シ

○落丁補充ノ請求ノ際ハ必ス其講義錄  
ヲ返戻スヘシ

○編輯用ト會計用トハ必ス別封タルヘ  
シ

葉書ノ場合モ之ニ準ス

明治三十二年十二月十四日印刷  
明治三十一年十二月十五日發行

編輯者 小田幹治郎  
東京市芝區四ノ久保明光町十一番地

印刷者 金子鐵五郎  
東京市芝區四ノ久保明光町十一番地

印刷所 金子活版所

發行所 司法省 和佛法律學校

所在 (東京市麴町區富士見)  
町六丁目十六番地

電話 (番町百七十四番)

明治三十二年十二月九日內務省許可